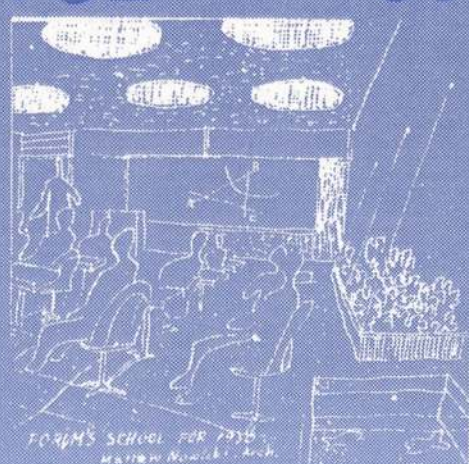


昭和二十四年三月十九日 第三種郵便物認可
昭和廿五年二月廿五日印刷 昭和廿五年三月一日發行 (毎月一日發行)

建築と社會

VOL — 31



NO — 3

THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

日本建築協會



菱 印 板 硝 子

普 通 板 硝 子
變 板 硝 子
磨 板 硝 子
安 全 硝 子

並 厚 三 耗、五 耗
薄 型、厚 型、縞 板、網 入 縞 板
三 耗、五 耗
強 化 硝 子 合 七 硝 子

三菱化成工業株式會社 名古屋旭事務所

名古屋市中區南伊勢町 2-10 TEL 東④7929 8945

本 社 東 京
事 務 所 東 京・大 阪・小 倉・小 樽
工 場 牧 山・尼 崎・鶴 見



日 本 板 硝 子 株 式 會 社 名 古 屋 支 店

名古屋市中區南大津通三丁目十二番地（萬茂二階）

電話（東）七 一 五 九 番・〇 七 九 二 番

製 品

普通板硝子 磨板硝子 型板硝子 曲グ強化硝子
耐 火 煉 瓦 各 種

本 社 大 阪 市 東 區 北 濱 五 丁 目 二 番 地（住友ビル）
支 店 東 京・名 古 屋・大 阪・小 倉・小 樽
工 場 二 島 工 場 福 岡 縣 若 松 市 二 島
四 日 市 工 場 三 重 縣 四 日 市 市
三 津 耐 火 煉 瓦 工 場 廣 島 縣 加 茂 郡 安 藝 津 町 三 津



建築と社會

3

1950・3

時の言葉.....	2
新建築作品紹介.....	3
名古屋電氣通信管理所	
名古屋電報局	
名古屋港郵便局	
千歳劇場	
竹中工務店名古屋支店	
農林中央金庫名古屋支所	
農協會館	
名古屋栄町郵便局	
既製服會館	
毛織會館	
都築紡織大垣工場	
東陽倉庫事務所	
松坂屋栄町店	
川瀬書店	

東京銀行一宮支店	
三和銀行上前津支店	
すみれ洋裁學院	
座談會 名古屋の建築を語る.....	25
玉畠豊次郎	廣川誠三郎
濱 一郎	池部 宗薫
伊藤 鐵一	池田源太郎
佐藤 四郎	松永 徳昌
水野 金市	岡田 平藏
鬼頭 昌文	
建築資材えの高周波加熱の利用.....	篠原卯吉.....35
	大島重成
建築文献目錄.....	林野全孝.....41
大阪中央放送局見學記.....	42
會務.....	43
我が家の「家と庭」設計圖案募集規程.....	綴込

時 の 言 葉

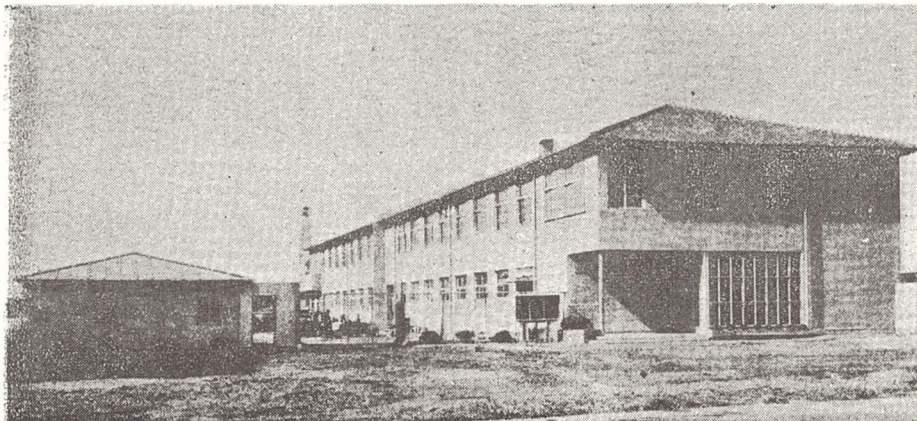
アメリカは日本の數十の都市が灰燼に歸したのを「科學なきものゝ最後」と評している全く我々は都市の大部分を喪失することによつてとどめを刺されたのであるが、事實都市構成に科學性を持たなかつた。我々の都市は不燃焼化されていなかつたのである。春秋の言を以つてすれば、敗戦の責任は建築家が負はなければならない。

屢々、市民に負擔力が無いとか自覺がないとか云はれた。然しそれは遁辭に過ぎない。我々には強力な指導性を欠いていた。我國だけがなぜ都市の眞ん中に木造の建物を認めねばならないのか。これは指導性が貧困な爲であつた。

戦争中には二、三年保てば良いと云うのが、設計の場合にも施工の場合にも合言葉になつていた。戦争が終つてもこの考えて應急バラツクが建てられた。情ないことである。然るに終戦五年の今日、尙この思想が必ずしも拂拭されていない。科學なき日本がまだ生きている。

宣傳では駄目だ。即時不燃都市への邁進である。この時施主について依頼されたまゝ不燃建物にしたがらない建築家がいやしないか、戒心すべきである。

ルビコンの河を渡ろうてはいなか。



名古屋

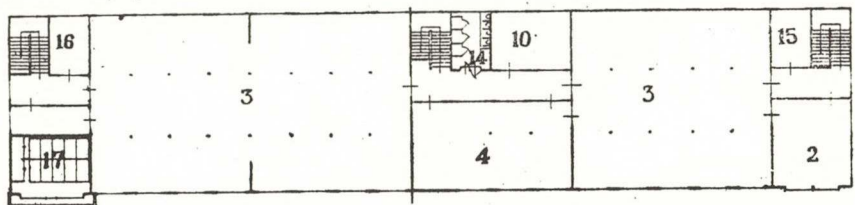
電氣通信

管理所

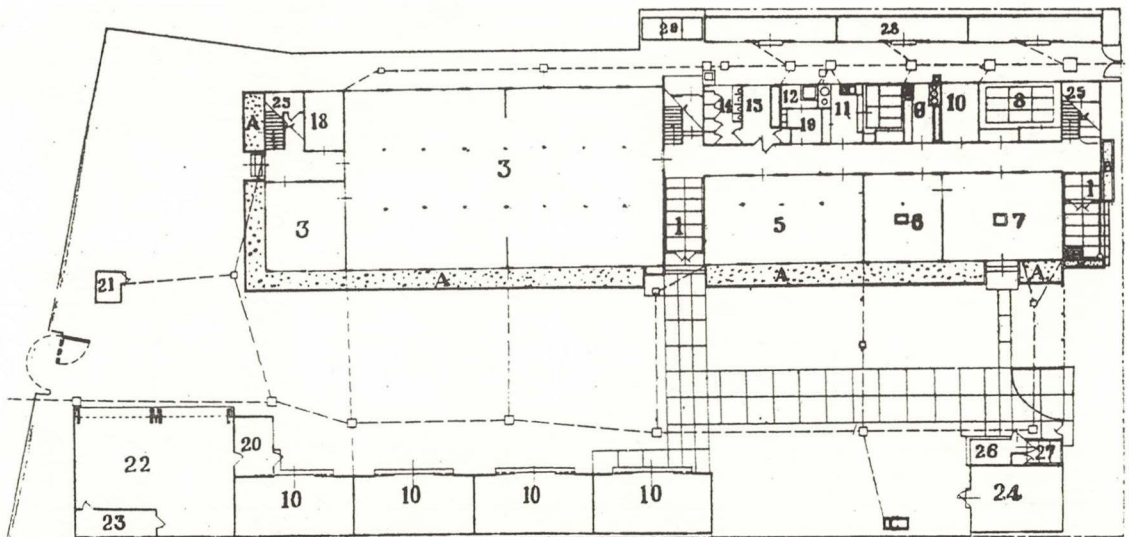
所在地 名古屋市東區東新町
 設計監理 東海電氣通信局建築部 (舊 名古屋逓信局管轄課)
 施工功 清水建設名古屋支店
 構造模 昭和24年2月
 本造日本瓦葺2階建 附屬舍 鐵板葺平屋
 局舍 一階 850M² 二階 850M² 附屬舍 365M² 計 2065M²

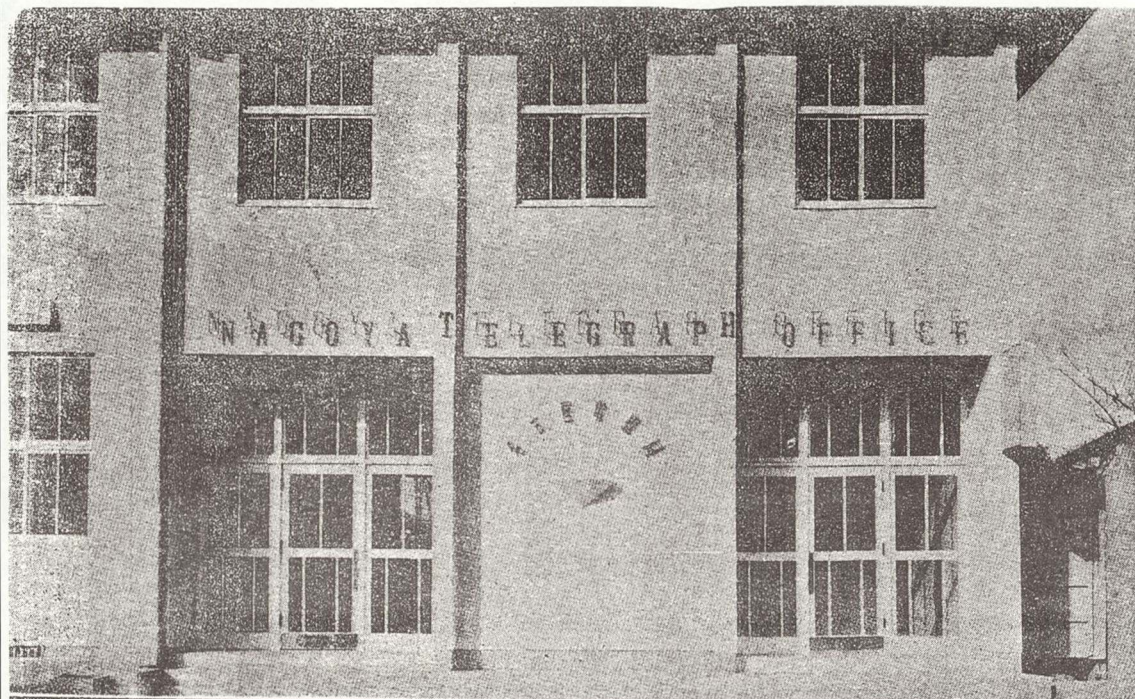
- | | | |
|-------|---------|--------|
| 1 玄關 | 5 餐成室 | 9 調理室 |
| 2 局長室 | 6 市外工員室 | 10 倉庫 |
| 3 事務室 | 7 木工工員室 | 11 湯沸室 |
| 4 會議室 | 8 工員宿直室 | 12 浴室 |

- | | |
|----------|----------|
| 13 洗面所 | 23 物品庫 |
| 14 便所 | 24 自轉車置場 |
| 15 應接室 | 25 監視室 |
| 16 交換室 | 26 監視直室 |
| 17 休憩應接室 | 27 薪炭庫 |
| 18 電池室 | 28 塵埃溜 |
| 19 脫衣室 | A 砂利敷 |
| 20 運轉手詰所 | B 花壇 |
| 21 監視員詰所 | C 流シ |
| 22 自動車庫 | |



1 0 5 0



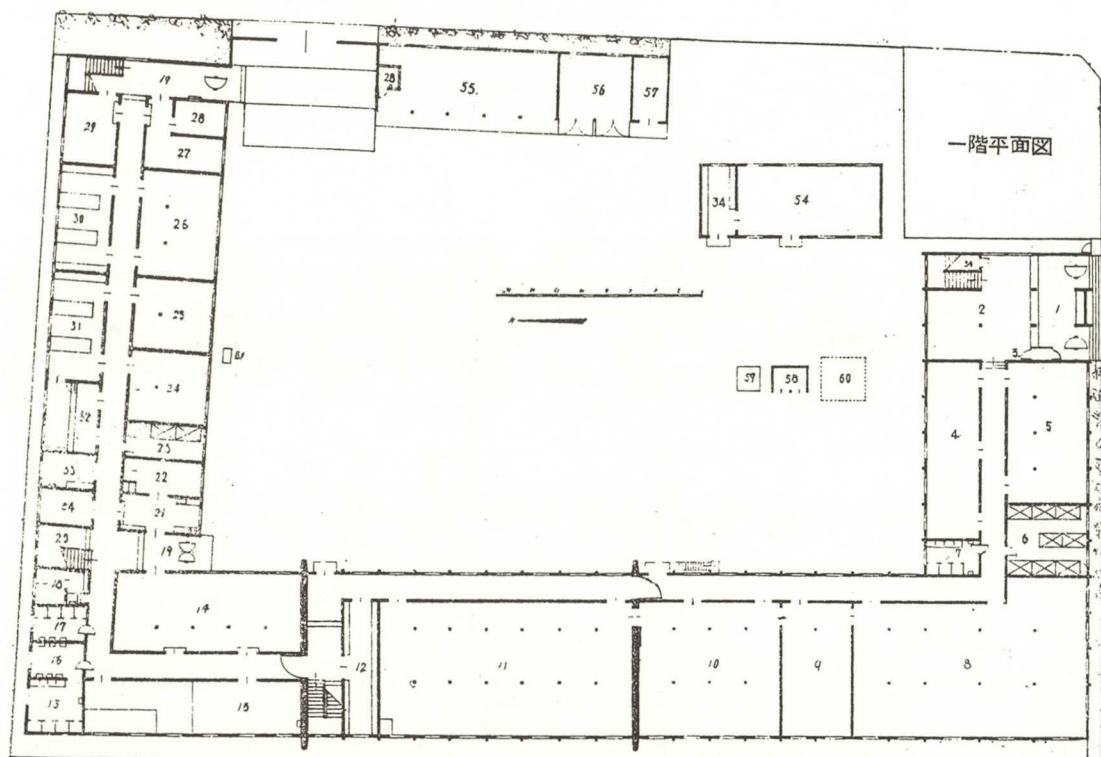


玄
関

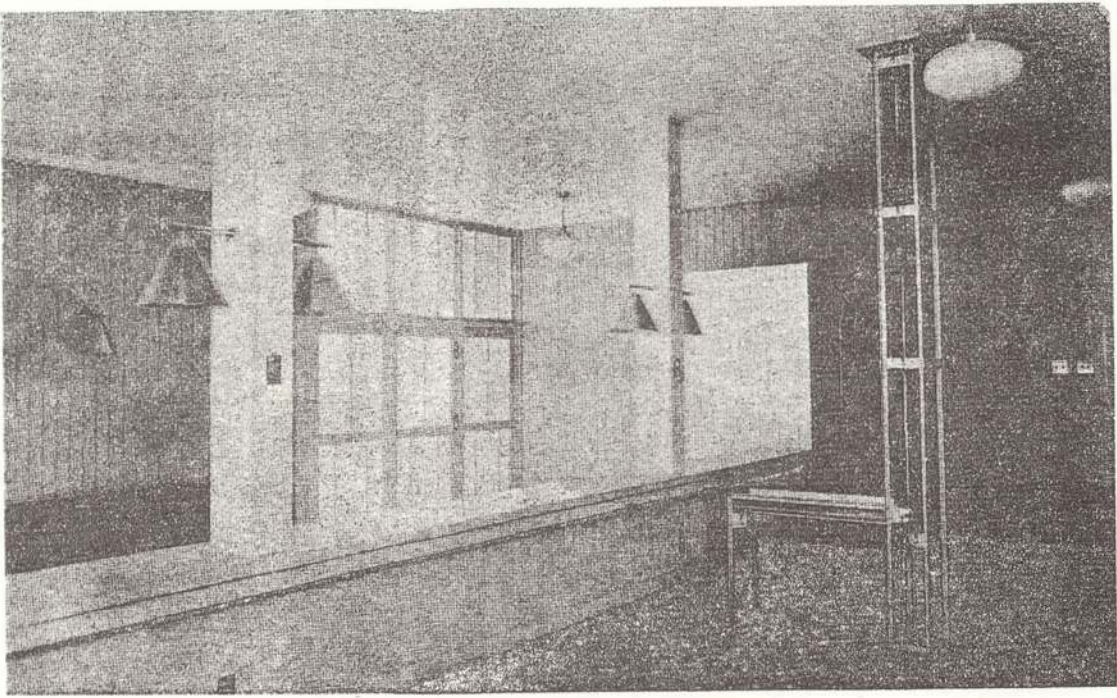
名古屋電報局

所在 名古屋市東區布池町一番地
設計 電氣通信省 施設局 建築部 設計課
監理 東海電氣通信局建築部
施工 池田建設株式会社名古屋支店
竣工 第一期工事 昭和二十四年十月、第二期工事
工事中
構造 局舎 木造日本瓦葺 二階建 附屬舎 木造
瓦葺 平家建

規模 局舎 1階 2,111.98m² 2階 2,111.98m²
合計 4,223.96m² 附屬舎 228m²
外装 モルタル塗り刷毛引セメント汁吹付仕上。木
部鐵部共ベニキ塗り（白色及び淡灰色）
内装 一般は床縁甲板、壁豎羽目及漆喰、天井漆喰
公衆溜及便所洗面所は床人造石研出。木部ベ
ニキ塗仕上（淡青色）



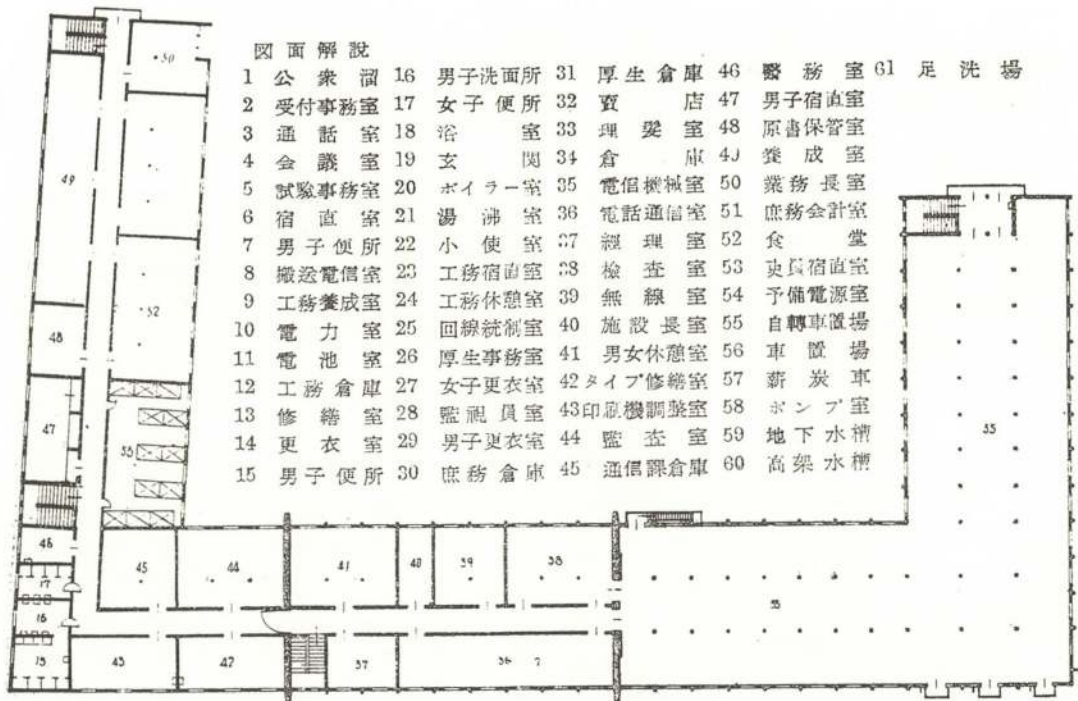
受付事務室より公衆溜を望む

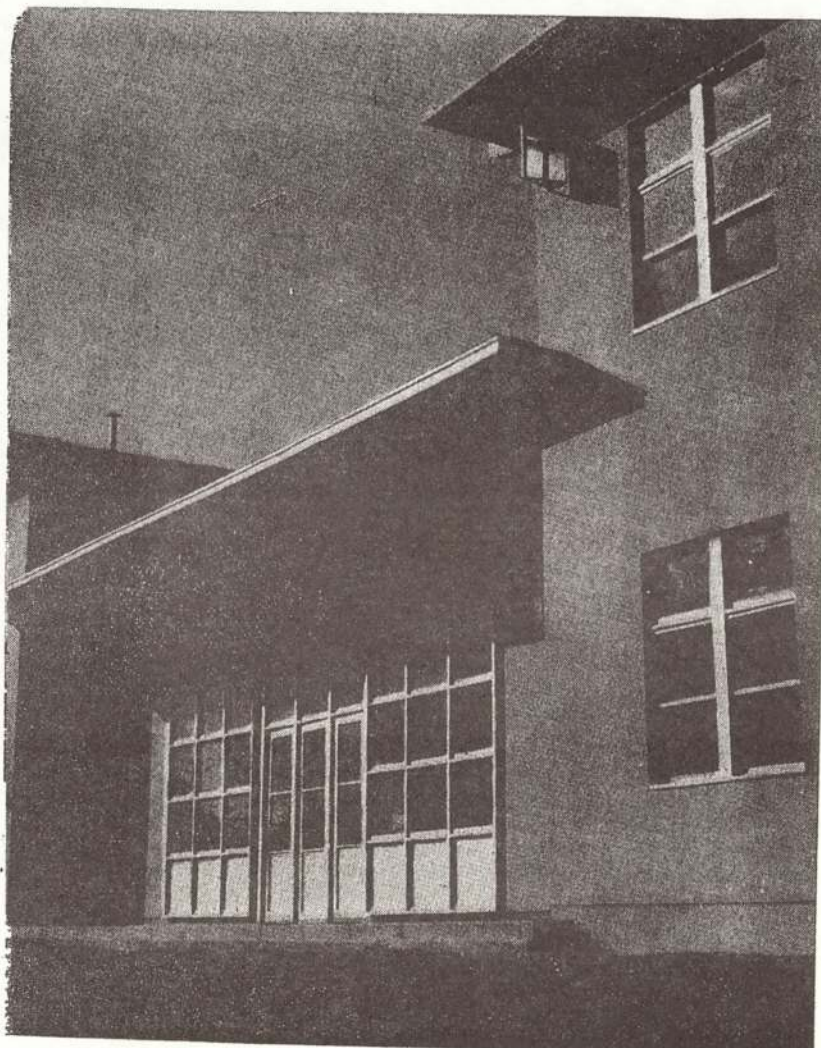


甲板はオイルステイン拭き 公衆溜床は人造石研出眞鍮目地棒入れ 腰掛は塩地材透明ライカ仕上 カウンター人造石研出仕上 通話室 カウンター下部堅羽目白色

ペンキ塗り 其他堅羽目は木部色塗り ブラケットワーク
ローム鍍金仕上 天井白色漆喰

二階平面図

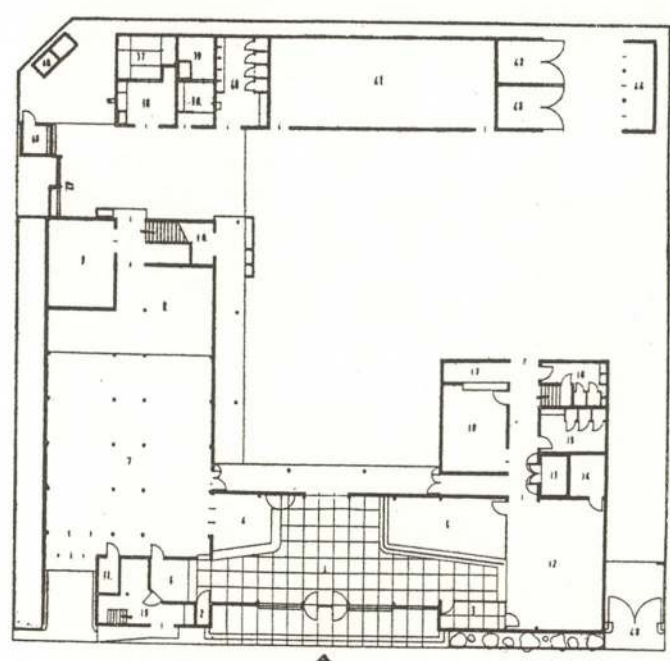




所 在 名古屋市港区名港通り
 設計監理 名古屋郵政局建築部
 (旧名古屋逓信局管轄課)
 施 工 大林組名古屋支店
 竣 工 昭和24年9月
 構 造 木造波型スレート葺二階
 建 一部鉄骨造(客溜)
 規 模 局舎 一階 654.75m²
 二階 495.00m²
 附屬舎 224.40m²
 計 1374.15m²

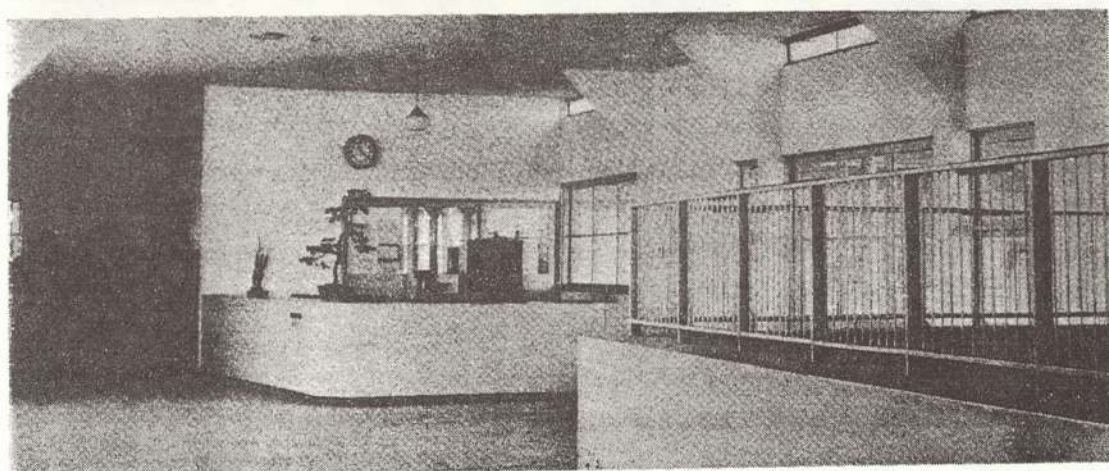
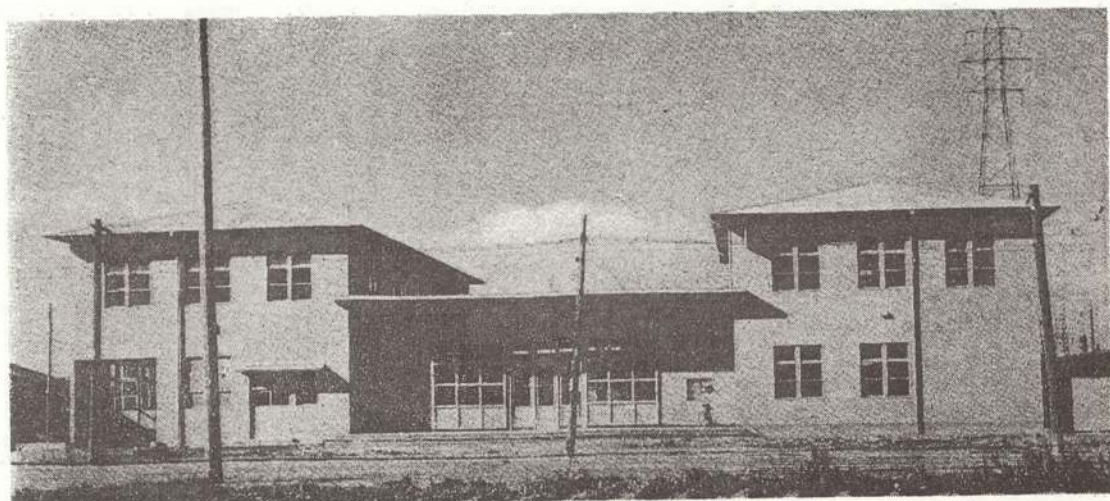
名古屋

港 郵 便 局

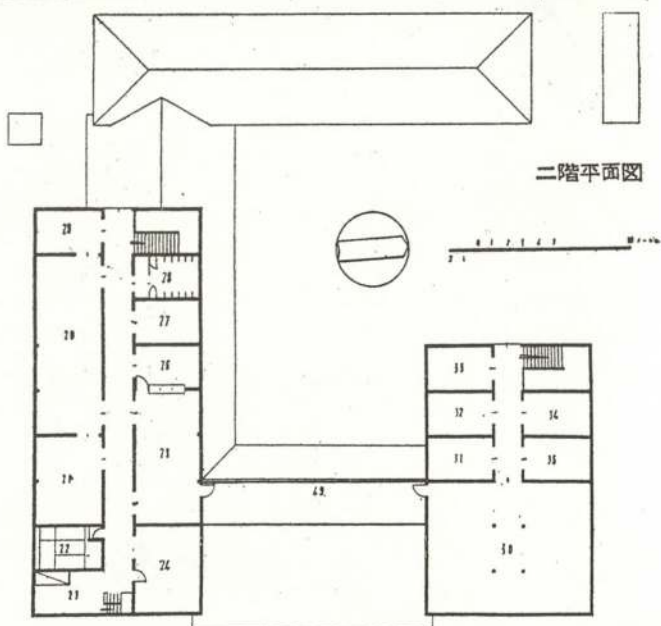


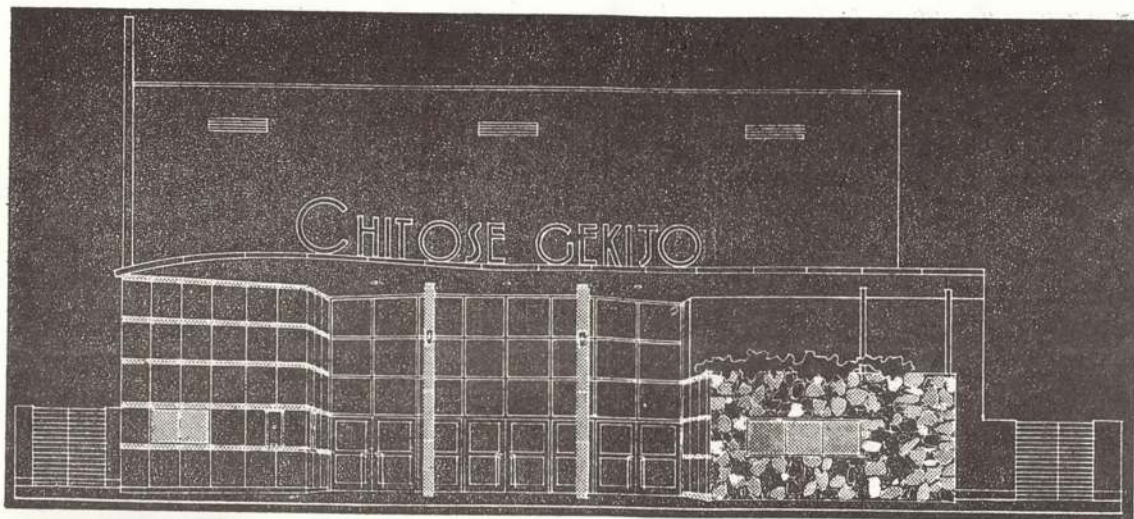
一階平面図

- | | |
|------------|------------|
| 1 公衆室 | 17 下足室 |
| 2 公衆電話室 | 18 器具置場 |
| 3 第一應接室 | 19 電配溜 |
| 4 郵便窓口事務室 | 36 湯沸室 |
| 5 電報窓口事務室 | 37 小使室 |
| 6 貯金窓口事務室 | 38 脱衣室 |
| 7 通常郵便事務室 | 39 浴室 |
| 8 区分室 | 40 便所 |
| 9 集配入室 | 41 自転車置場 |
| 10 電池室 | 42 迎送集配車置場 |
| 11 行囊保管室 | 43 消防器具置場 |
| 12 保険窓口事務室 | 44 薪炭置場 |
| 3 室金庫 | 45 監視員室 |
| 14 書類庫 | 46 塵灰捨場 |
| 15 女子便所 | 47 第一通用門 |
| 16 男子便所 | 48 第二通用門 |



- | | | | |
|----|-------|----|-------|
| 20 | 庶務室 | 29 | 第二應接室 |
| 21 | 局長室 | 30 | 保險事務室 |
| 22 | 吏員宿直室 | 31 | 男子宿直室 |
| 23 | 電配宿直室 | 32 | 女子宿直室 |
| 24 | 電信機械室 | 33 | 衛生室 |
| 25 | 食堂 | 34 | 倉庫 |
| 26 | 賄室 | 35 | 倉庫 |
| 27 | 倉庫 | 49 | 通庫路 |
| 28 | 切手倉庫 | | |





千 歳
劇 場

所 在 名古屋市南区南桑名町1丁目16番地
設 計 壽建設工業株式会社
担 当 濱一郎 伊藤清
施 工 同 上
竣 工 昭和24年10月31日
構 造 鐵骨造厚型スレート葺半家建
規 模 1 階 208坪41
中 2 階 34坪58
合 計 242坪99
觀 客 席 598名

外 装 一般ラスモルタル塗プラスター吹付仕上
正 面 壁テラゾオ貼り、一部リソイド仕上
鐵兵石と大理石の亂貼り
獨立柱、テラゾオ貼り
出入口及窓 スチールサツシュ
内 装 ホール 床眞鍮目地棒入り人造石研出し
巾木テラゾオ貼り
腰4分角ラスモザイクタイル象眼貼
り 壁及天井 プラスター塗り
オーデトリウム 床色モルタル塗り
腰モルタル塗りベンキ仕上
壁テツクス貼り水性メンキ叩き
天井テツクス貼り水性ベンキ塗り
一 般 床モザイクタイル貼り及モルタル塗
腰モルタル塗りベンキ仕上
壁及天井プラスター塗り



平面圖説明

- | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|----|---|---|---|---|---|
| 1 | ボ | ー | チ | 13 | レ | コ | ー | ド | 室 |
| 2 | ホ | ー | ル | 14 | 切 | 符 | 賣 | 場 | |
| 3 | オ | ー | デ | 15 | 控 | 室 | | | |
| | | | ト | 16 | 予 | 備 | 室 | | |
| 4 | ス | テ | ー | 17 | 電 | 氣 | 室 | | |
| 5 | 廊 | | 下 | 18 | 映 | 寫 | 室 | | |
| 6 | 休 | 憩 | 室 | 19 | フ | イ | ル | ム | 室 |
| 7 | 男 | 子 | 便 | 20 | 技 | 師 | 控 | 室 | |
| 8 | 女 | 子 | 便 | 21 | ホ | ー | ル | | |
| 9 | 化 | 粧 | 室 | 22 | ホ | ー | ル | 吹 | 抜 |
| 10 | 楽 | 屋 | 裏 | 23 | オ | ー | デ | ト | リ |
| 11 | 喫 | 茶 | 室 | | | | | ア | ム |
| 12 | 事 | 務 | 室 | 24 | 照 | 明 | 室 | | |

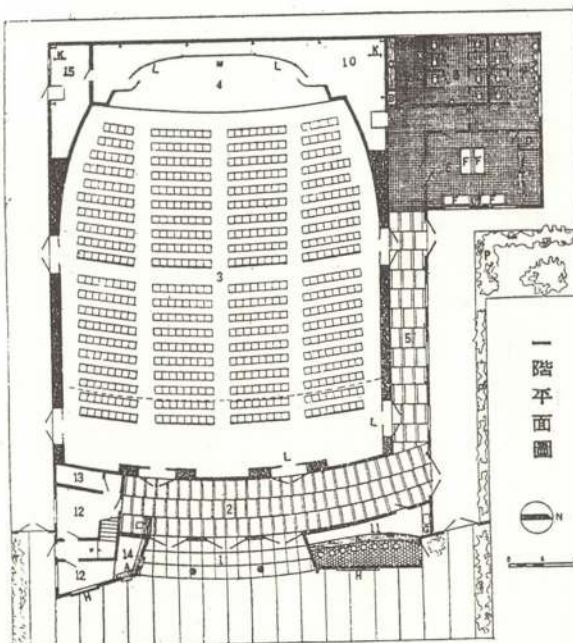
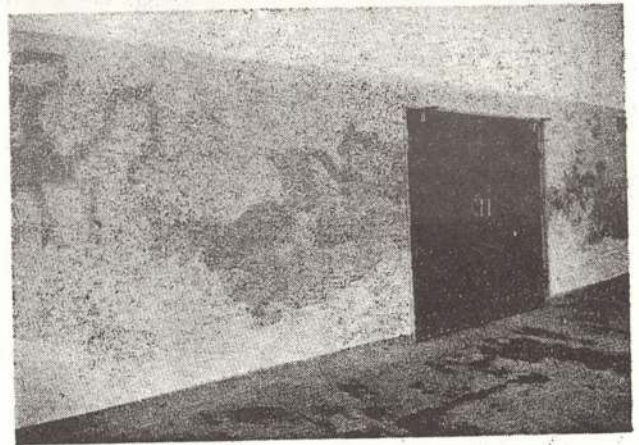
- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|
| A | カ | ウ | ン | タ | ー | J | ス | ピ | ー | カ |
| B | 物 | | | 入 | | | ボ | ツ | ク | ス |
| C | 化 | 粧 | 室 | K | 梯 | | | | | 子 |
| D | 電 | 話 | 室 | L | カ | | | | | テ |
| E | 賣 | | 店 | M | ス | | | | | ク |
| F | ソ | フ | ア | N | 手 | | | | | 摺 |
| G | 調 | 理 | 台 | O | 屋 | | | | | 根 |
| H | プ | ロ | マ | P | 植 | | | | | 木 |
| | | | ド | Q | 庇 | | | | | |
| I | | | ケ | | | | | | | |
| | | | ース | | | | | | | |

観覧席内部

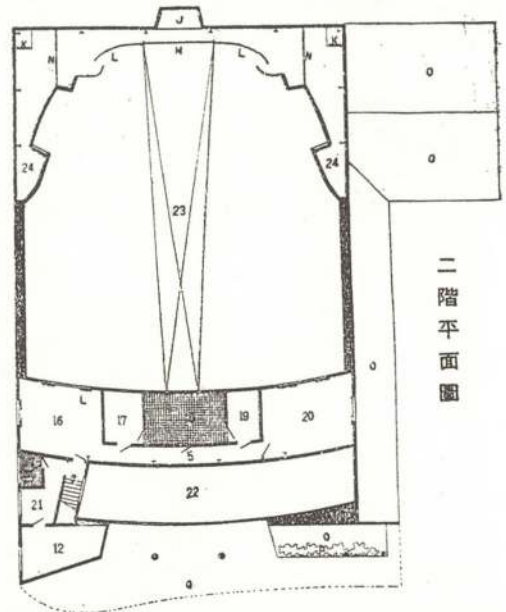


正面ホール

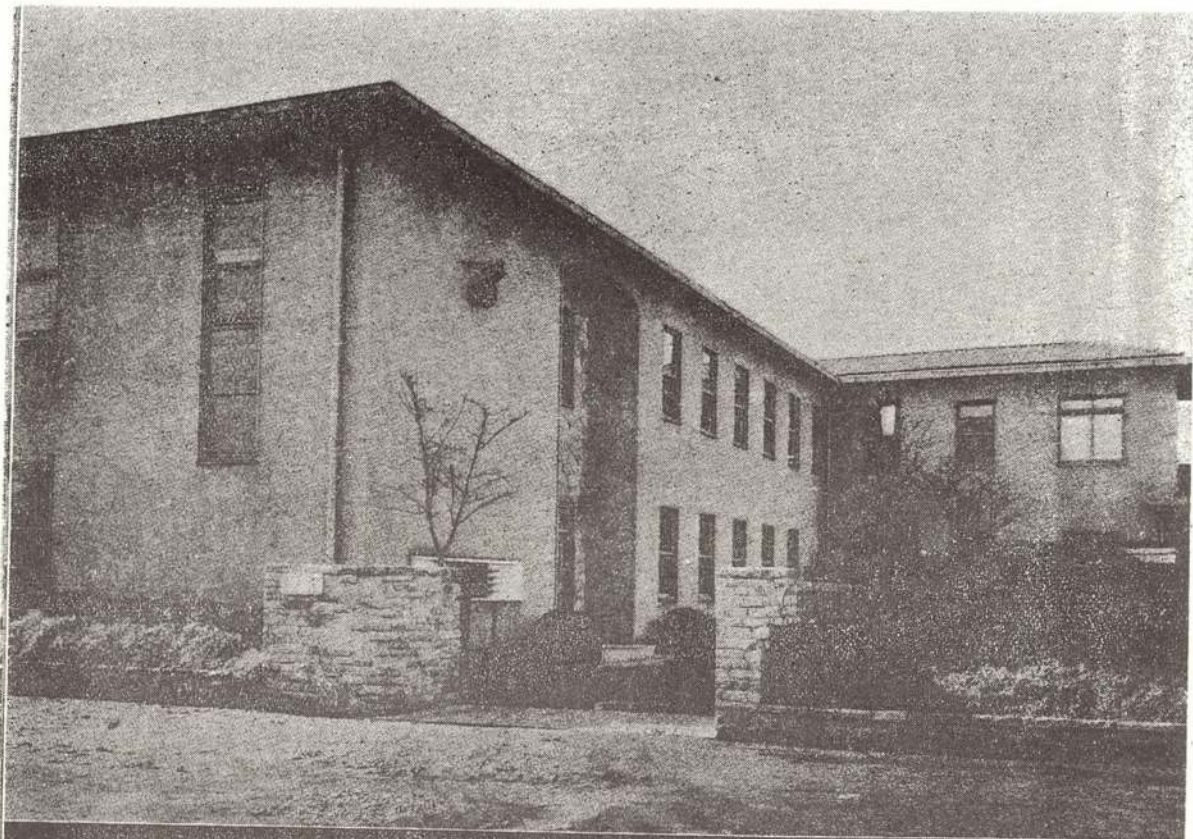
構成 太田三郎画伯
ラスモザイク壁画



一階平面圖

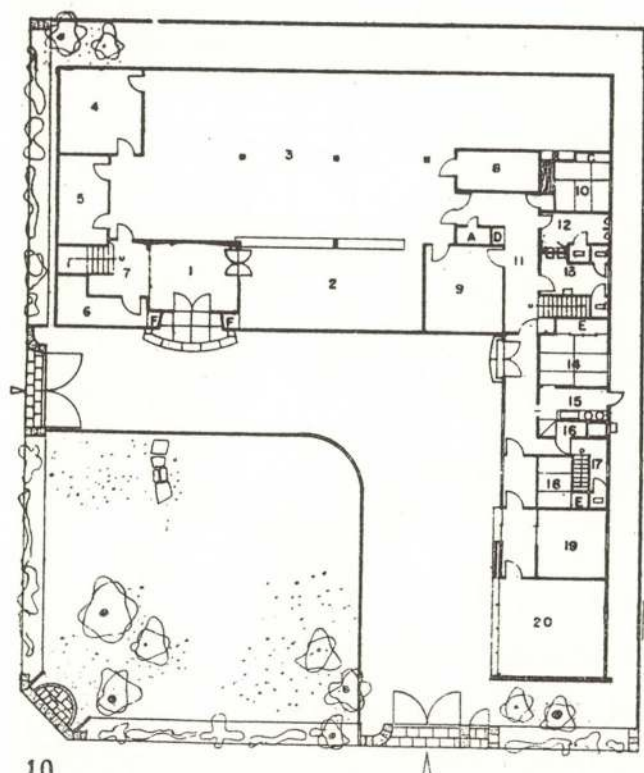


二階平面圖



竹 中 工 務 店 名 古 屋 支 店

一 階 平 面 圖

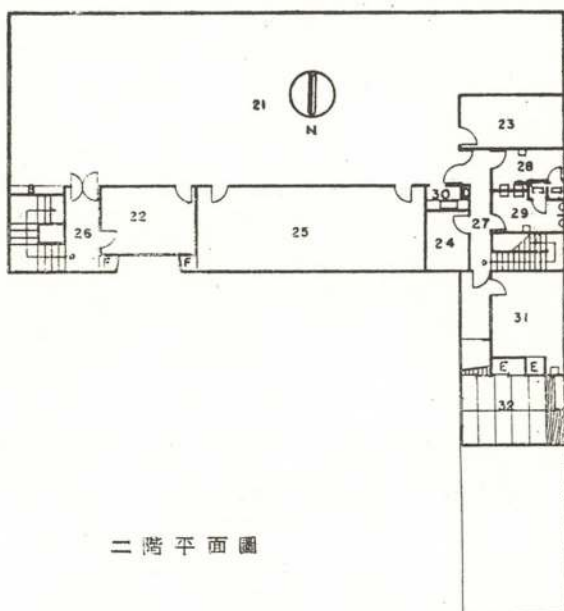


所在 名古屋市中區荅原町二丁目十一番地
 設計 竹中工務店名古屋支店
 監理 全 上
 施工 全 上
 竣功 昭和二十二年九月
 構造 木造 瓦葺 二階建
 規模 1階 150.00坪 2階 135.00坪 計 285.00坪
 外装 腰 鐵平石貼 壁 モルタル塗色セメント吹付
 玄関周リ 大理石亂貼
 屋根 厚型スレート葺
 内装 床 玄関 テラゾー眞鍮目地入
 事務室關係 橡甲板張り 一部リノリウム敷キ
 腰 事務室關係 モルタル塗 水性ペンキ仕上
 壁 各室 プラスター仕上 一部水性ペンキ仕上
 天井 玄関 プラスター仕上
 事務室關係 ベニヤ板張り 水性ペンキ叩キ
 仕上
 内部造作 オイルペンキ仕上

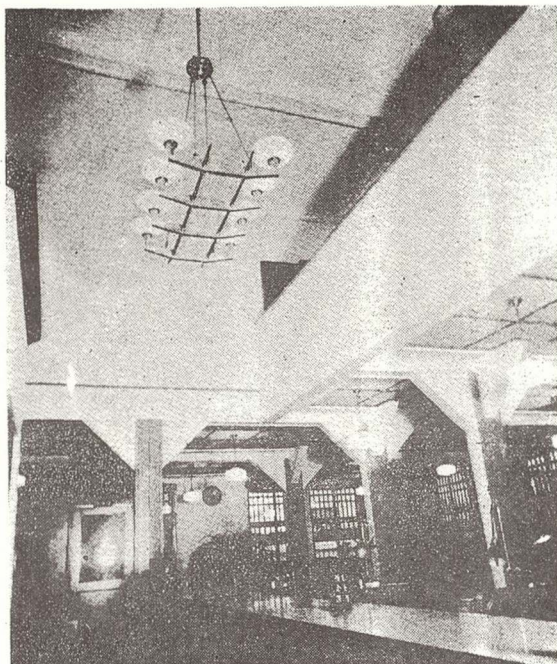
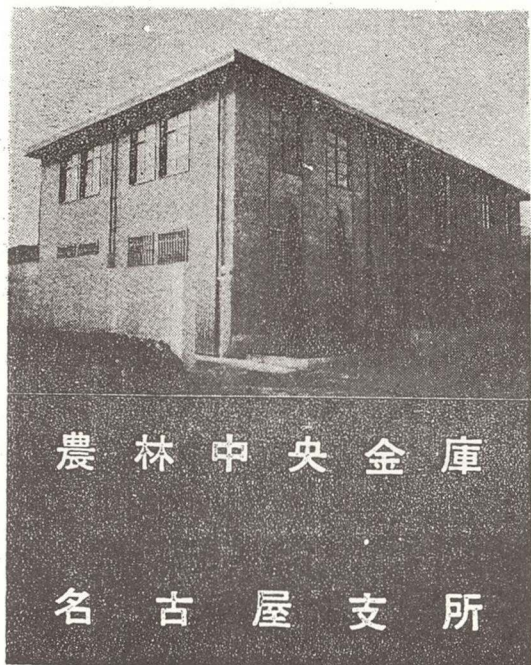


正面玄関レリーフ

- | | | | | | |
|------|----|-----|------|----|---|
| 1 玄客 | 務接 | 關溜室 | 21 事 | 務接 | 室 |
| 2 客 | | 室 | 22 應 | 接 | 室 |
| 3 事 | 務接 | 室 | 23 タ | イ | 室 |
| 4 應 | 接 | 庫 | 24 電 | ブ | 室 |
| 5 應 | 段 | 室 | 25 會 | ラ | 室 |
| 6 倉 | | 庫 | 26 階 | イ | 室 |
| 7 階 | 段 | 室 | 27 廊 | タ | 下 |
| 8 書 | 更 | 庫 | 28 女 | 議 | 所 |
| 9 男 | 衣 | 室 | 29 子 | 段 | 場 |
| 10 女 | 更 | 室 | 30 子 | | 室 |
| 11 廊 | 衣 | 下 | 31 湯 | 便 | 室 |
| 12 男 | 便 | 所 | 32 宿 | 便 | 室 |
| 13 女 | 便 | 所 | | 泊 | |
| 14 小 | 使 | 室 | | | |
| 15 飲 | 事 | 場 | | | |
| 16 浴 | | 室 | | | |
| 17 便 | 員 | 所 | | | |
| 18 運 | 控 | 庫 | | | |
| 19 倉 | | 庫 | | | |
| 20 自 | 動 | 庫 | | | |
-
- | | | |
|-----|---|---|
| A 掃 | 掃 | 入 |
| B 書 | 除 | 棚 |
| C 更 | 道 | 棚 |
| D 消 | 物 | 栓 |
| E 押 | 衣 | 入 |
| F 物 | 火 | |



二階平面圖



所在 名古屋市中區菅原町三丁目二番地

設計監理 三菱地所株式會社建築部

施工 清水建設株式會社名古屋支店

竣工 昭和24年9月

構造 木造瓦葺 二階建

規模 1階 131.75坪 2階 76.00坪

外装 モルタル、色セメント吹付ケ仕上グ

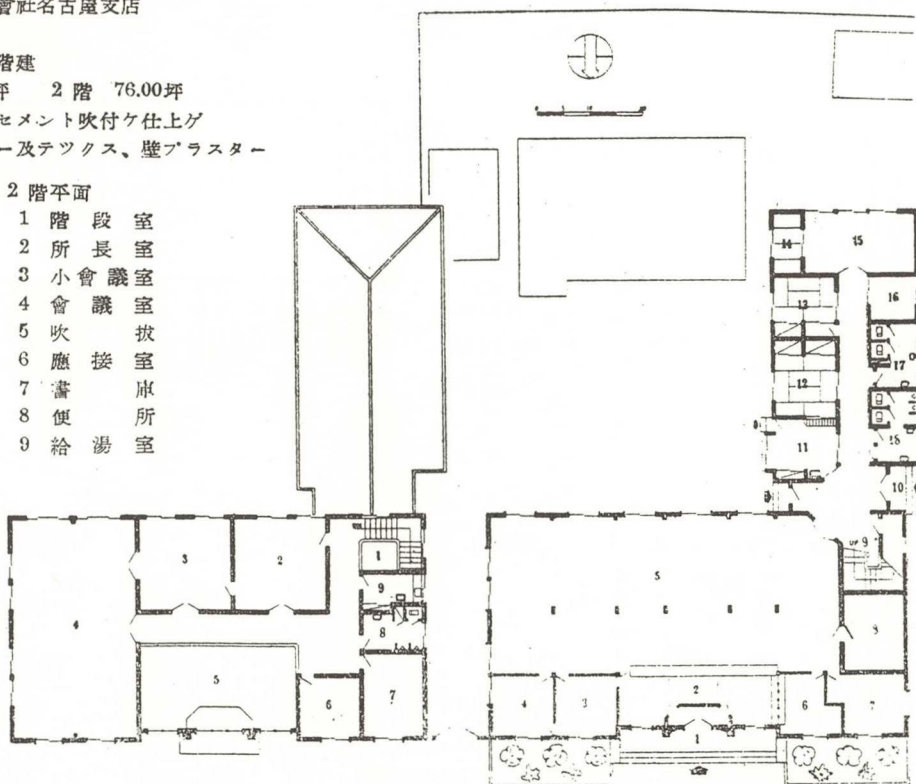
内装 天井プラスター及テツクス、壁プラスター

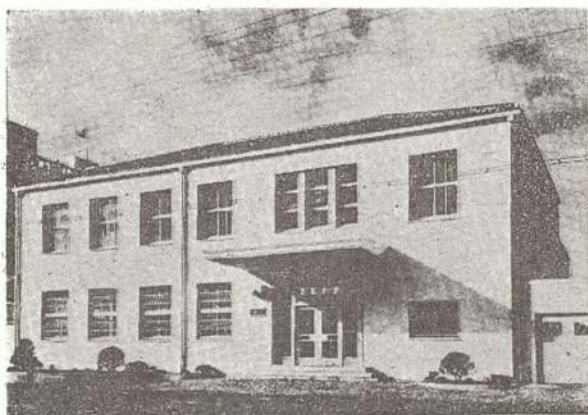
1 階平面

- 1 玄 關
- 2 客 室
- 3 第一應接室
- 4 第二應接室
- 5 營 業 室
- 6 出 納 室
- 7 電話交換室
- 8 金 庫 室
- 9 階 段 室
- 10 通 用 口
- 11 湯 沸 室
- 12 小 便 室
- 13 宿 直 室
- 14 女子更衣室
- 15 食 堂
- 16 物 置
- 17 女子便所
- 18 男子便所

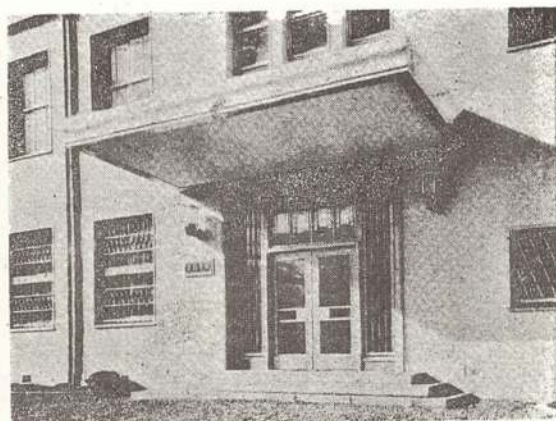
2 階平面

- 1 階 段 室
- 2 所 長 室
- 3 小 會 議 室
- 4 會 議 室
- 5 吹 拔 室
- 6 應 接 室
- 7 書 庫 所 室
- 8 便 所
- 9 給 湯 室





農 協 會 館



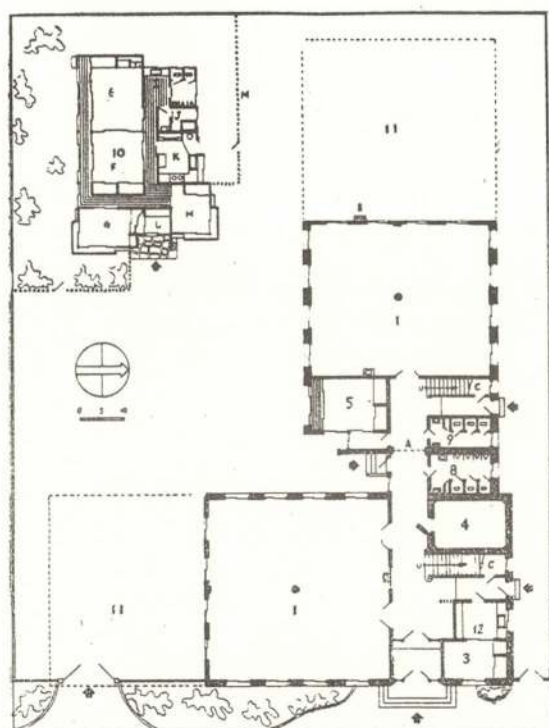
所在 名古屋市中區南鍛冶屋町2丁目4番地
 設計 日本建設産業株式會社名古屋支店建築課
 監理 全 上
 施工 竹中工務店名古屋支店
 竣工 昭和25年1月
 構造 木造瓦葺2階建、一部2階梁鐵骨造
 規模 本館1階149.825坪、2階146.5坪 合計296.325坪。
 附屬家33.25坪

外装 色モルタル振落シ及吹附ケ、腰 錆擬石及錆人造
 洗出シ

内装 床、玄関現場テラゾー及事務室桧フローリング、
 壁日東プラスター天井、日東プラスター及プラス
 ターボード水性ペンキ塗り

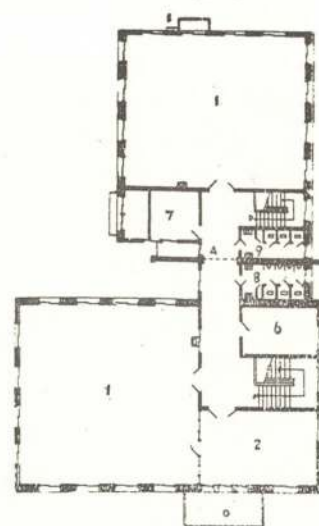
農協會館は全國農業販賣協同組合と全國農業購買協同組
 合の東海支部事務所として建設されたものである。

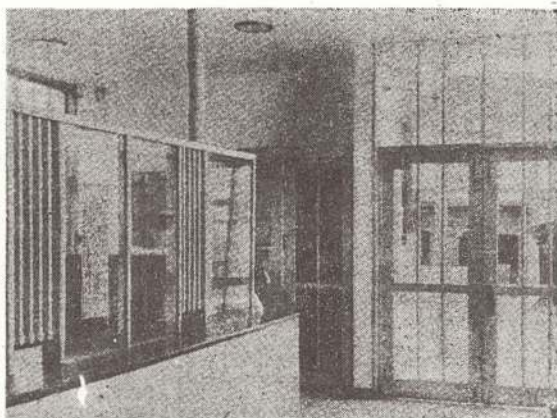
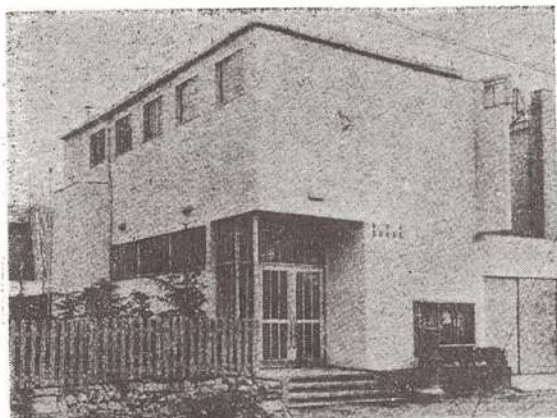
一階平面圖



- | | | |
|----|---------|-----|
| 1 | 事務室 | 室 |
| 2 | 會議室 | 室 |
| 3 | 小使庫 | 室 |
| 4 | 金庫 | 室 |
| 5 | 宿直備 | 室 |
| 6 | 予備交換 | 室 |
| 7 | 電話交換 | 室 |
| 8 | 男便 | 所 |
| 9 | 女便 | 所 |
| 10 | 別館 | 所 |
| 11 | 増築 | 予定場 |
| 12 | 湯沸 | 場 |
| A | 防火シャッター | |
| B | 避難梯子 | |
| C | 物入 | |
| D | 庇 | |
| E | 日本間 | 十帖 |
| F | 同 | 八帖 |
| G | 同 | 六帖 |
| H | 同 | 五帖 |
| I | 洗面 | 所 |
| J | 浴室 | 所 |
| K | 台 | 所 |
| L | 支 | 所 |
| M | 四ツ目垣 | |

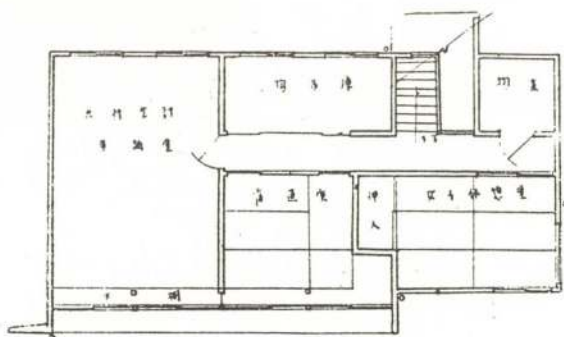
二階平面圖



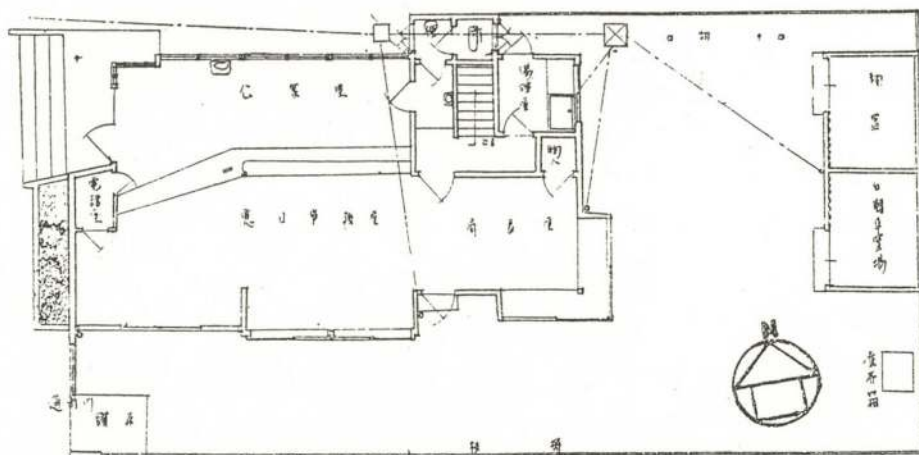


名古屋 栄町郵便局

所 在 名古屋市中区栄町
設計監理 名古屋郵政局建築部 (舊名古屋逓信局管轄課)
施 工 名古屋 池田組
竣 功 昭和24年10月
構 造 木造セメント瓦葺二階建
規 模 1階 72.72M² 2階 72.72M² 附属舎 12.96M²

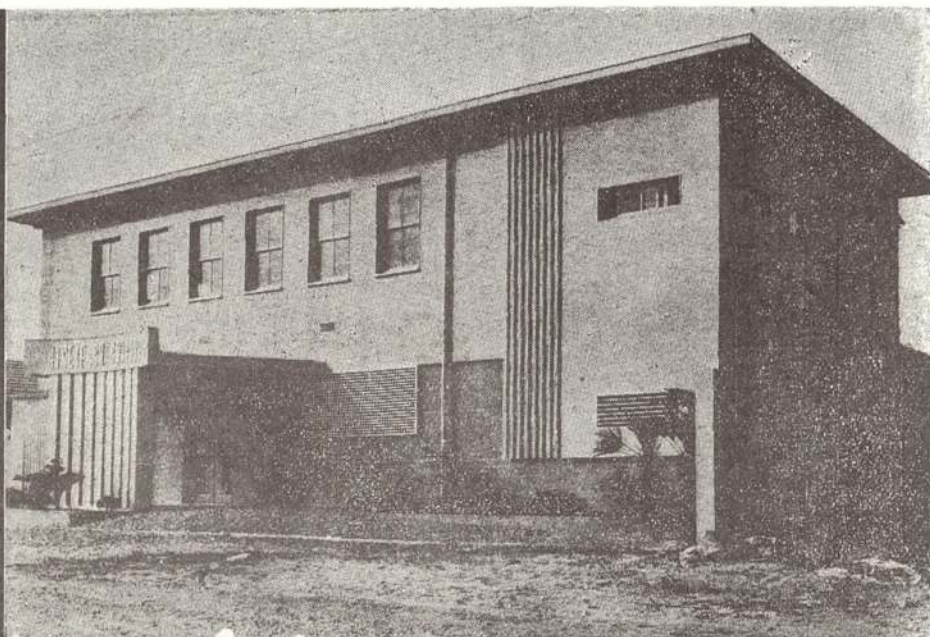


二階平面圖



一階平面圖

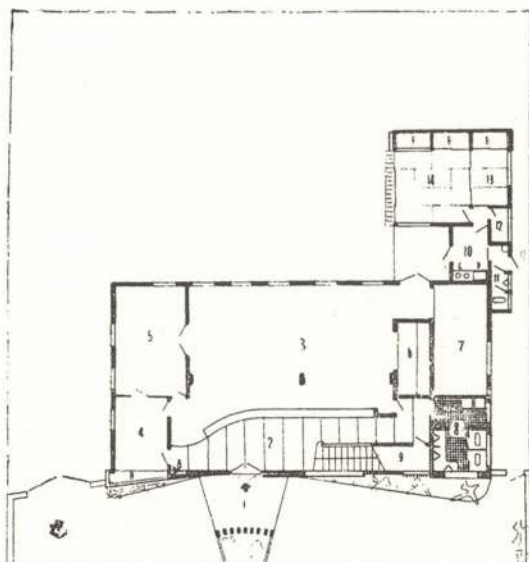
既
製
服
會
館



1 階

- | | | | | | | | |
|----|----------------|-------|------------------|---------------|---------|----|---------|
| 1 | ボ客事應會金倉化物湯便物小宿 | 一務接長庫 | テ溜室室室庫室置室所入室(3帖) | A B C D E F G | 花出炊流押床濡 | 事ノ | 台窓台シ入間縁 |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | |
| 14 | | | | | | | |

一階平面圖



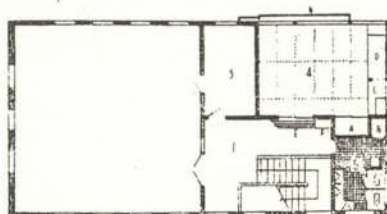
所在 愛知縣一宮市音羽町
設計 清水建設株式會社名古屋支店
設計担當 中根富貴三 大島恒夫
監理 全 上
施工 清水建設株式會社名古屋支店
竣功 昭和24年1月
構造 木造厚型スレート葺 二階建 一部 平家建
規模 1階 66.375坪、2階 50.000坪、合計 116.375坪
外装 壁色セメント吹付、腰人造石洗出、ボーチ柱モザイクタイル貼り

内装 客 溜 床、人造研出目地切り 巾木、人造研出 腰モザイクタイル 壁、プラスター 天井、プラスター 其ノ他 カウンター甲板テラゾー
事務室 床、桧甲板 巾木、杉ベンキ 腰、ベニヤベンキ 壁、プラスター 天井、プラスター 其ノ他、獨立柱板貼ベンキ
會長室 床、桧甲板 巾木、杉ベンキ 腰、ベニヤベンキ 壁、プラスター 天井、プラスター 其ノ他、スクリンベニヤベンキ
日本間15帖 床、タミ 壁、砂壁 天井、桧椽
會議室 床、桧甲板 巾木、杉ベンキ 腰、ベニヤベンキ 壁、プラスター素面 天井、プラスター素面

2 階

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-------|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ホ | 一 | ル | A | 押 | 入 | E | 式 | 台 |
| 2 | 會 | 議 | 室 | B | 物 | 入 | F | 下 | 箱 |
| 3 | 控 | 室 | (15帖) | C | 床 | 脇 | G | 肘 | 掛 |
| 4 | 日 | 本 | ノ | D | 床 | 間 | | | |
| 5 | 化 | 粧 | 室 | | | | | | |

二階平面圖





毛織會館

所在 愛知縣名古屋市中區袋町 2
丁目

設計 清水建設株式會社名古屋支
店、設計担当 中根富貴三
大島恒夫

監理 全 上

施工 全 上

竣工 昭和24年10月

構造 木造塩焼瓦葺二階建一部平
家建

規模 1階 64,710坪 2階 48,250坪
合計 112,960坪

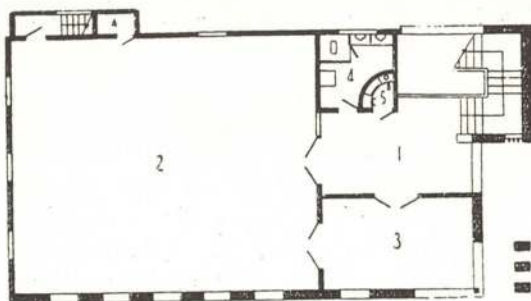
外装 壁 人造石洗出、ポーチ 獨
立柱テラゾー貼り

内装 ホール廊下 床、桧甲板
巾木、杉ペンキ 腰、プラス
ターペンキ 壁、プラス
ター 天井、漆喰 其ノ他
受付カウンター 甲板堅木ワ
ニス

事務室 床、桧甲板 巾木
杉ペンキ 腰、プラスター
ペンキ 壁、プラスター
天井、漆喰 其ノ他、獨立
柱檜ペンキ

應接室 床、桧甲板 巾木
杉ペンキ 腰、壁紙バリ

天井、漆喰
會議室、床、桧甲板 巾木
堅木ワニス 腰、ベニヤワ
ニス 壁、プラスター 天
井、漆喰

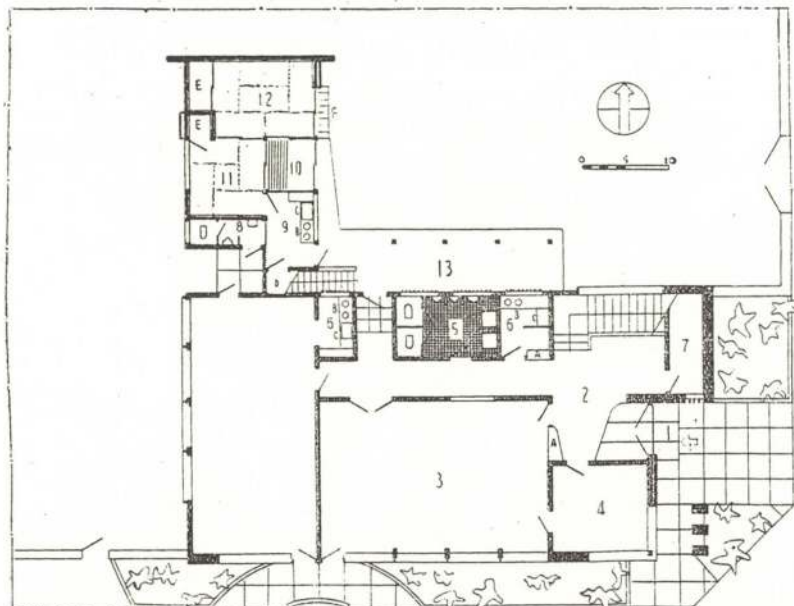


1 階

1	ボ	一	チ	A	カ	カ	入
2	ホ	一	ル	B	炊	事	合
3	事	務	室	C	流		シ
4	事	接	室	D	物		入
5	應	接	室	E	押		縁
6	化	沸	室	F	濡		
7	湯		置				
8	物		所				
9	便		房				
10	厨		間				
11	4.	5	帖				
12	6		帖				
13			自動車置場				

2 階

1	ホ	一	ル	A	物	入
2	會	議	室	B	炊	事
3	事	務	室	C	流	合
4	便		所			シ
5	湯	沸	室			



都 大
築 垣
紡 工
織 場



所在 愛知縣知多郡
阿久比村大字植
大字中郷15

設計管理 篠田

川口建築事務所

施工 大成建設株式

會社名古屋支店

竣功 昭和24年8月

構造 鐵骨造 亞鉛

引鐵板葺 平家

一部二階建

規模 1階 360.00坪

2階 32.00坪

計 392.00坪

外装 屋根、亞鉛鍍鐵板瓦

棒葺 壁、セメントモ

ルタル塗り 色、セメ

ント吹付け

内装 床 コンクリート打

モルタル仕上ゲ目地切

リ

腰 羽目板、ペンキ塗り

リ、鐵骨露出部ペンキ

塗り

ステージ 腰及プロセ

ニウムアーチ、デュラ

ルミン板、ペンキ塗り

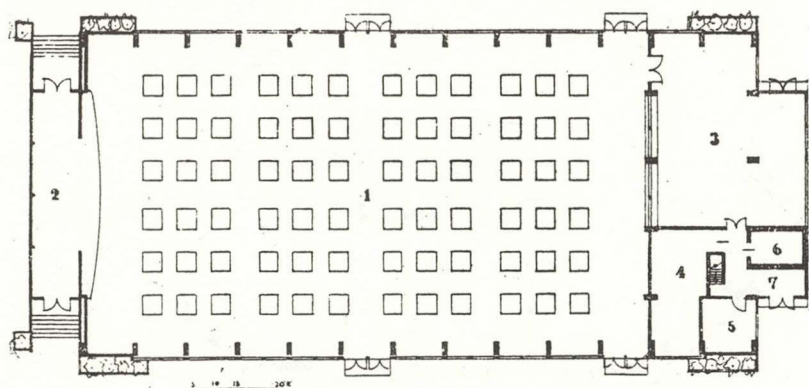
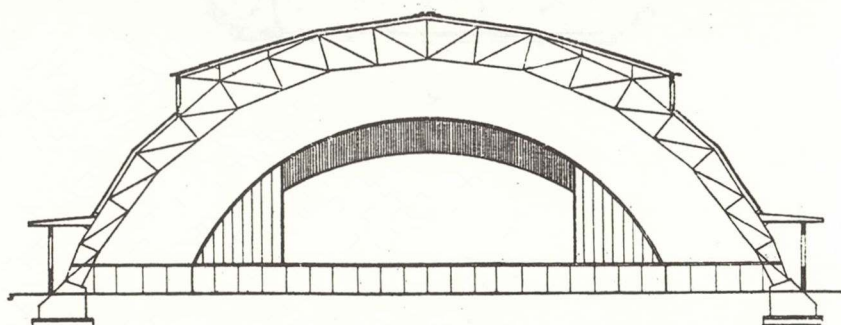
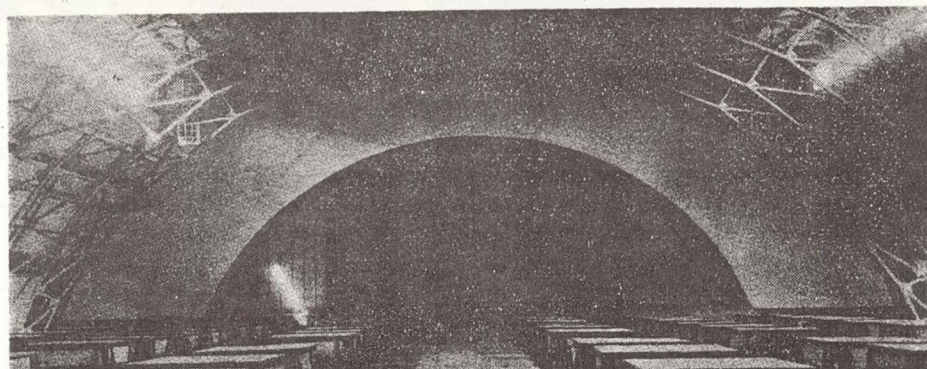
壁白漆喰

厨房 床 クリンカータ

イル、壁及天井板張り

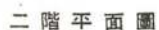
ペンキ塗り

二階ニ映寫室ヲ設ク

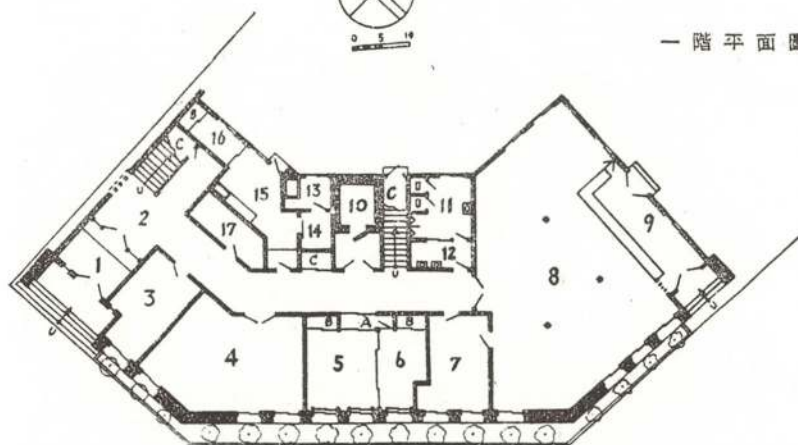
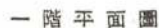


解説

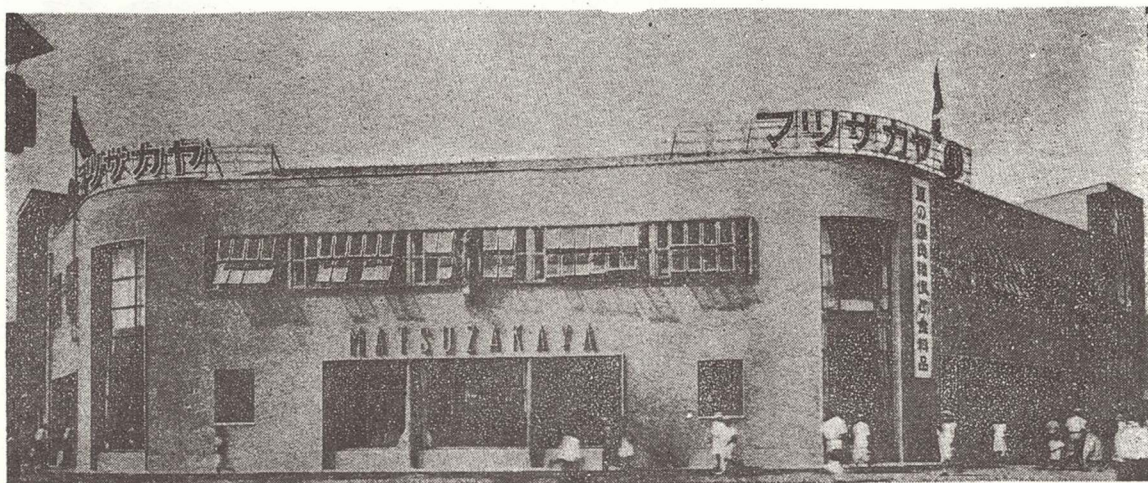
- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 食 | 堂 |
| 2 | テ | デ |
| 3 | 厨 | 房 |
| 4 | 倉 | 庫 |
| 5 | 事 | 務 |
| 6 | 冷 | 室 |
| 7 | 廊 | 下 |



所在地	名古屋市市中村區水主町
設計	日本建設産業株式會社名古屋支店建築課
監理	全 上
施工	清水建設株式會社 名古屋支店
竣工	昭和23年7月
構造	木造瓦葺2階建
規模	1階 124.83坪 2階 124.83坪 合計 249.68坪
外装	色モルタル振落、一部テラ ズン貼り
内装	床フローリング貼り、巾木 横板貼りペンキ塗り、壁天 井プラスター塗り、玄関床 テラズン貼り



1	玄關	14	脫衣	衣事	室場
2	廣會	15	炊小	事使	場室
3	菜食	16	書事	務	庫室
4	更宿	17	會幹	務	室室
5	應場	18	幹幹	部部	室室
6	現客	19	踏	部	室
7	金便	20	押	込	ミ
8	洗浴	21	物		入
9					
10					
11					
12					
13					

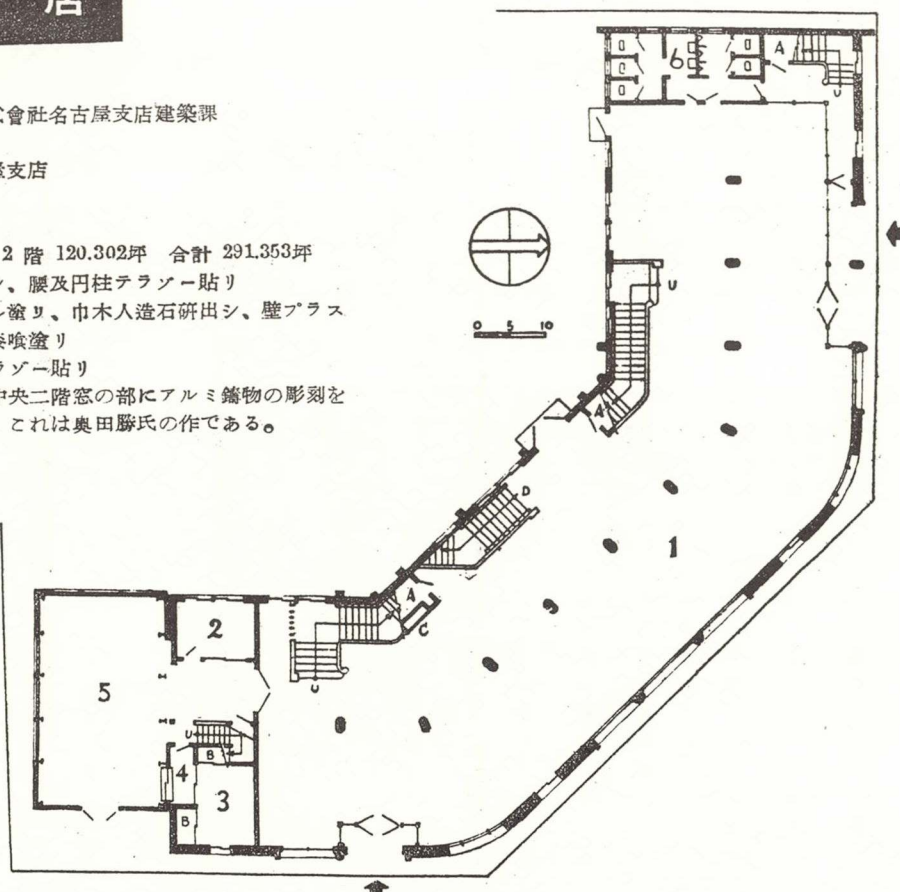


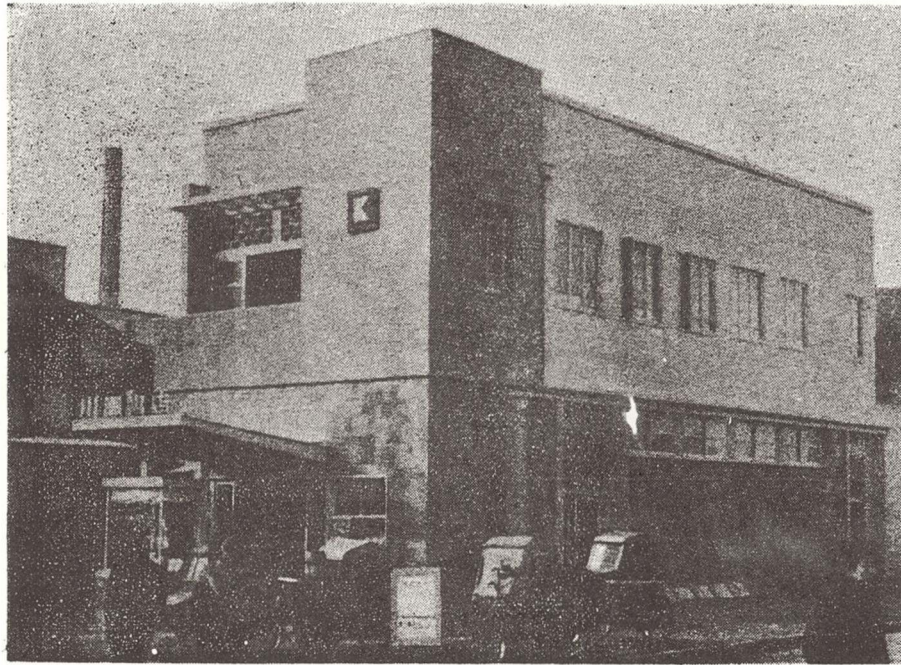
松坂屋 栄町店

所在 名古屋市中区
設計 日本建設産業株式会社名古屋支店建築課
監理 全 上
施工 竹中工務店名古屋支店
竣工 昭和24年5月
構造 木造瓦葺2階建
規模 1階 171.051坪 2階 120.302坪 合計 291.353坪
外装 色モルタル振落シ、腰及円柱テラゾー貼り
内装 床石粉入モルタル塗り、巾木人造石研出シ、壁プラスター塗り、天井漆喰塗り
玄関 床、腰テラゾー貼り

正面の彫刻 建築の正面中央二階窓の部にアルミ鑄物の彫刻をつけてある。これは奥田勝氏の作である。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 賣場 |
| 2 | 事務室 |
| 3 | 宿直室 |
| 4 | 受付 |
| 5 | アルミニウム
アーム建家 |
| 6 | 便所 |
| A | 物入 |
| B | 押入 |
| C | 飾り窓 |

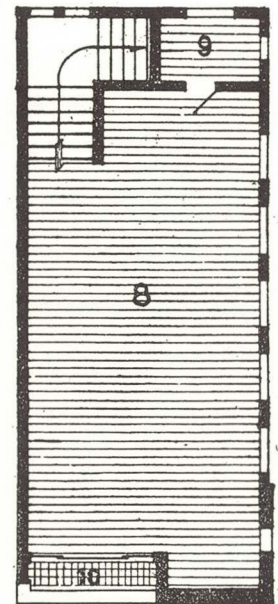
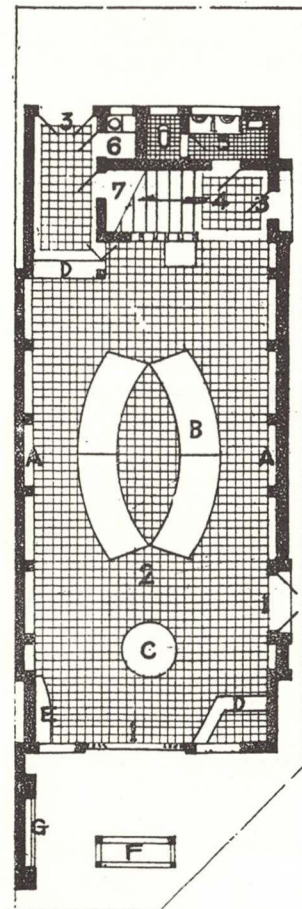




川 瀬
書 店

所在 名古屋市中區下長者町 4丁目 9番地
設計 名古屋市昭和區小針町 4丁目 2番地
黒川建築事務所
監理 全 上
施工 名古屋市中川區西古渡町 3丁目 22番地
長建設株式會社名古屋支店
竣工 昭和24年 8月下旬
構造 木造厚型スレート葺 2階建
規模 1階 32坪 2階 27坪 合計 59坪
外装 1階部分ハ鐵平石貼 2階部分ハモザイツクタイル貼及色モルタル吹付仕上
内装 1階床モザイツクタイル貼 2階床檜板貼 腰壁ベニヤ板貼 壁シツクイ塗 天井ベニヤ板貼 外部木部ベニヤ塗 内部木部ニス塗

1	客	出	入	口	A	書	籍	棚
2	店			口	B	書	籍	台
3	通	用		口	C	丸	型	棚
4	階	段		口	D	包	書	台
5	便			所	E	書	裝	台
6	湯	沸		所	F	飾	籍	窓
7	宿	直		室	G	廣	告	
8	事	務		室				
9	應	接		室				
10	ベ	ラ	ン	ダ				



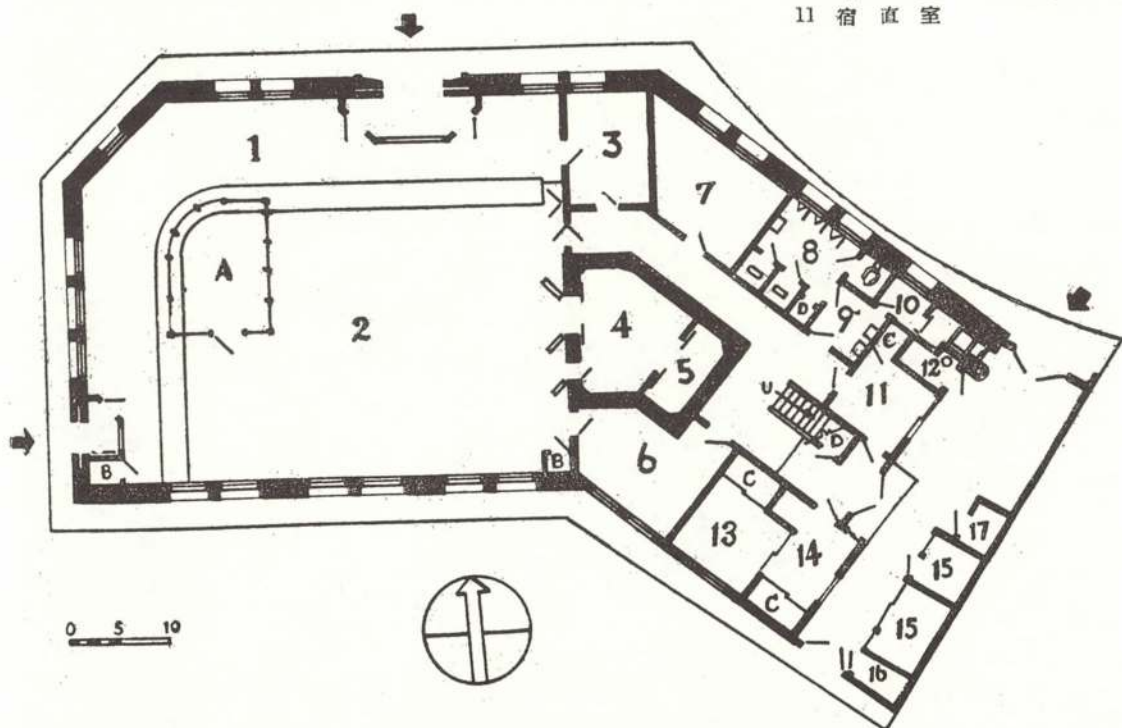
0 6 12

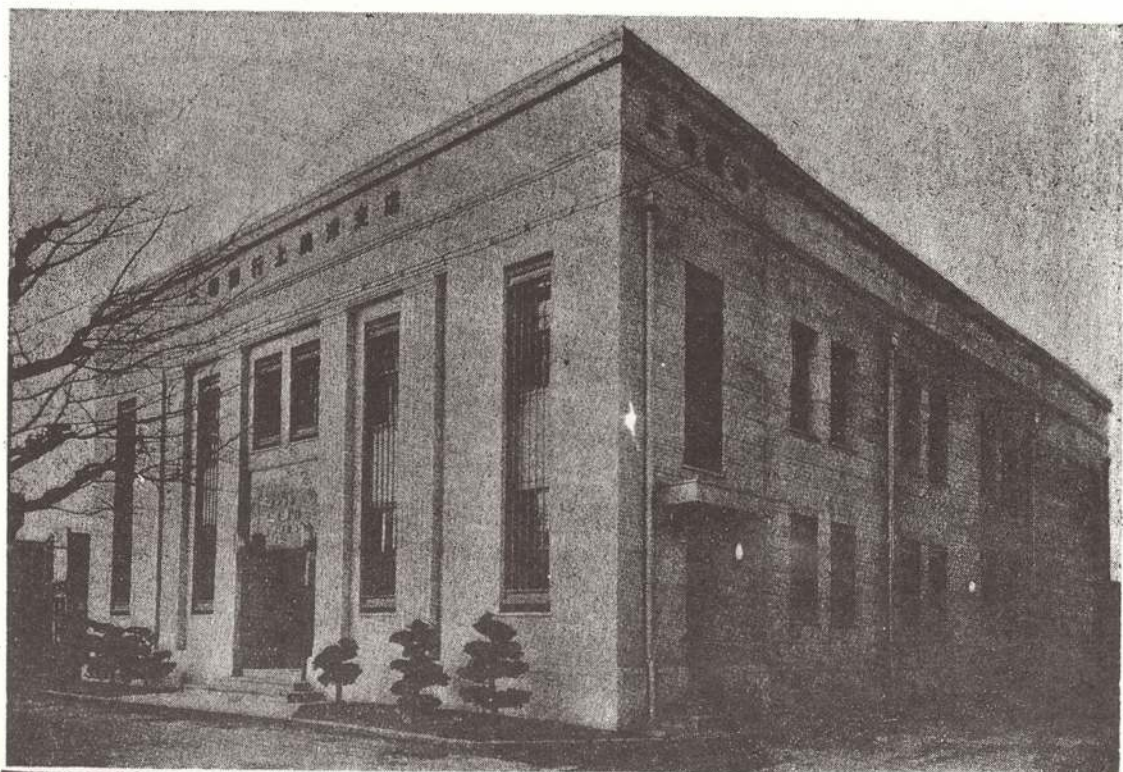
東京一宮支店
銀行



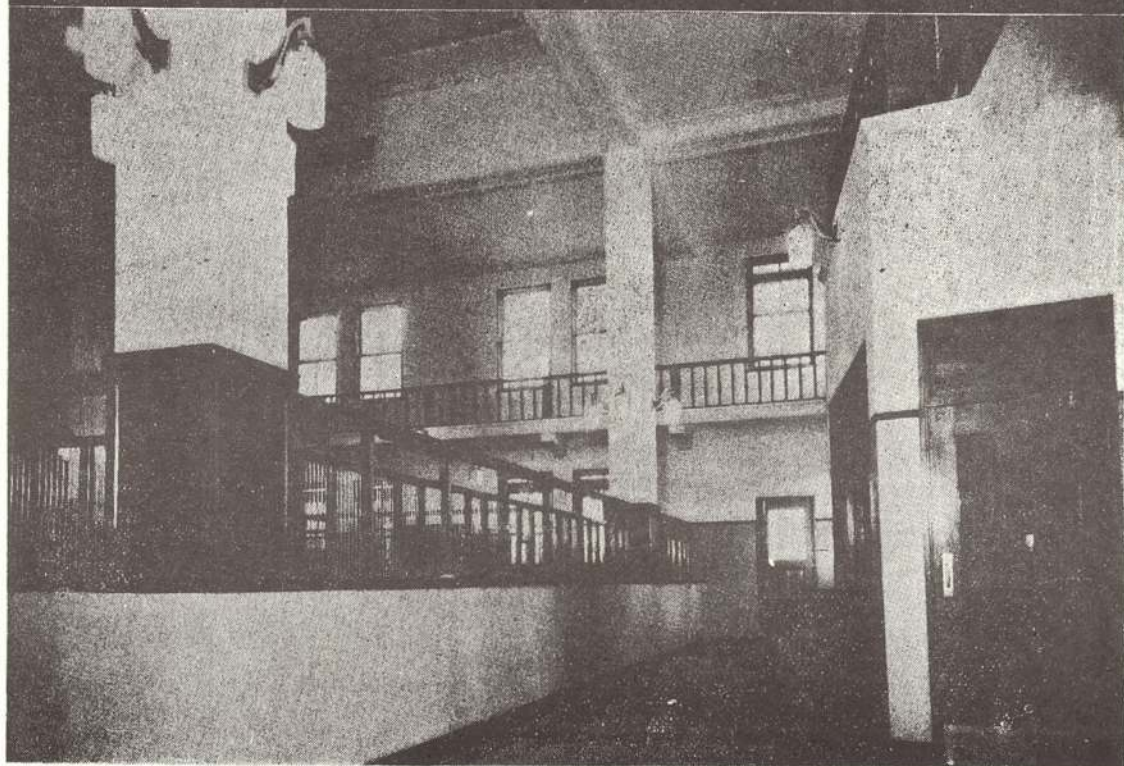
所在 一宮市
設計 日本建設産業株式会社名古屋支店建築課
監理 全 上
施工 大成建設株式会社名古屋支店
構造 木造瓦葺2階建 金庫室鋼筋コンクリート造
規模 1階 94.246坪 2階 37.625坪 合計 131.871坪
外装 人造石洗出、一部大理石及テラゾー貼り
内装 床現場テラゾー、モルタル塗及木造リノリウム貼仕上、巾木 テ
ラゾー及木造ワニス又ハベッキ塗仕上
腰 テラゾー及木製腰羽目ワニス仕上
壁 プラスター塗、一部ベッキ塗仕上
天井 プラスター塗仕上

- | | | | | | |
|----|---|---|----|---|---|
| 1 | 客 | 溜 | 12 | 焚 | 場 |
| 2 | 營 | 室 | 13 | 小 | 室 |
| 3 | 應 | 庫 | 14 | 小 | 使 |
| 4 | 書 | 車 | 15 | 倉 | 溜 |
| 5 | 金 | 庫 | 16 | ホ | 庫 |
| 6 | 支 | 室 | | | 室 |
| 7 | 店 | 長 | A | 出 | 納 |
| 8 | 更 | 衣 | B | 電 | 話 |
| 9 | 便 | 所 | C | 押 | 入 |
| 10 | 洗 | 面 | D | 物 | |
| 11 | 浴 | 直 | | | |





三 和 銀 行 上 前 津 支 店



- | | | | | | |
|----|---|---|----|---|---|
| 1 | 客 | 溜 | 14 | 書 | 庫 |
| 2 | 營 | 室 | 15 | 會 | 室 |
| 3 | 業 | 納 | 16 | 議 | 下 |
| 4 | 出 | 室 | 17 | 廊 | 拔 |
| 5 | 應 | 室 | | 吹 | |
| 6 | 接 | 庫 | A | 押 | 入 |
| 7 | 金 | 直 | B | 踏 | 込 |
| 8 | 宿 | 室 | C | コ | 台 |
| 9 | 女 | 更 | D | 流 | シ |
| 10 | 子 | 衣 | E | 戸 | 棚 |
| 11 | 物 | 置 | F | 物 | 入 |
| 12 | 小 | 使 | G | 手 | 洗 |
| 13 | 湯 | 室 | H | 洗 | 面 |
| | 食 | 堂 | | | |
| | 便 | 所 | | | |
| | 洗 | 面 | | | |

所 在 名古屋市中區上前津町18番地
設 計 株式會社三和銀行營繕部
監 理 全 上
施 工 株式會社鴻池組名古屋支店
竣 功 昭和24年12月10日
構 造 屋 根 日本瓦葺
軸 組 木 造

規 模 小 屋 トラス 一部附屬家和小屋
基 礎 無筋コンクリート造
金庫室並書庫 鐵筋コンクリート造
1 階 127 坪 (倉庫室吹抜天井)
2 階 32 坪
計 159 坪

外 裝 外 壁 白セメント人造石洗出
正面柱型 白セメント人造石小叩キブロック貼り
並腰廻り 黑色テラゾー貼り
玄関廻り オイルペイント塗り
木 窓 格子溜 鐵パイプ使用 オイルペイント塗り
内 裝 床 人造石研出シ目地入り、巾木黑色テラゾー貼り
腰高6尺5寸、テラゾー貼り、壁・天井・白漆喰塗り

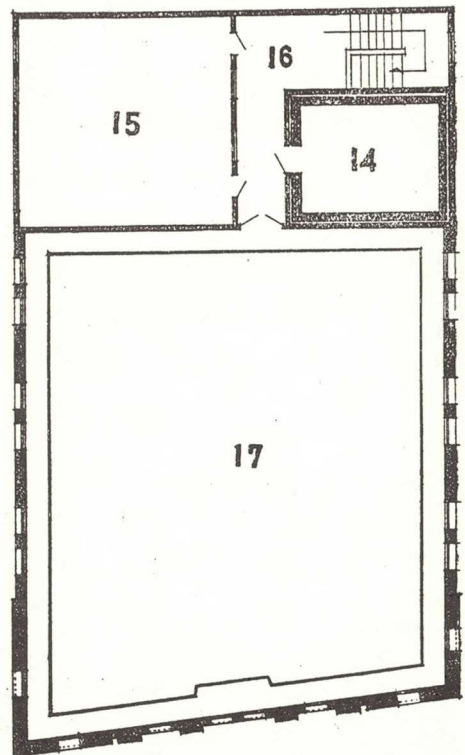
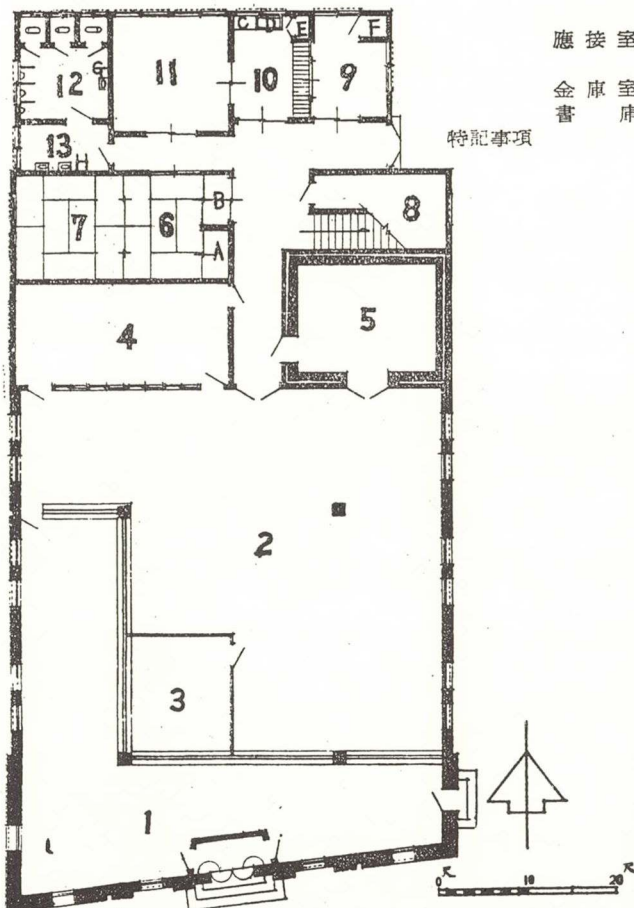
營業室 床・桧フローリング・オイルステイン塗り
巾木・木製・腰漆喰塗りオイルペイント 小叩キ
仕上、壁 白漆喰塗り
天井白漆喰塗り一部吹抜キ天井

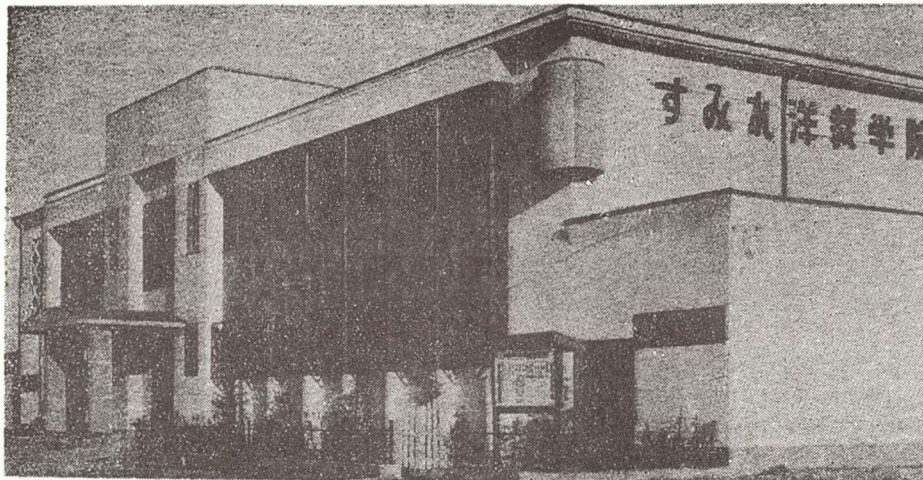
カウンター 巾木 黑色テラゾー貼り、腰 琥珀色テラゾー貼
リ、甲板 黑色テラゾー貼り、スクリーン 桧無
地 ワニス仕上ゲ

應接室 床 桧フローリング・寄木貼り・オイルペイント
塗り、巾木 腰・壁・天井・營業室同斷

金庫室 床モルタル塗り、壁・天井・白漆喰塗り
書 庫 同上
便所水洗式、非常警報設置

特記事項





すみわ洋裁学院

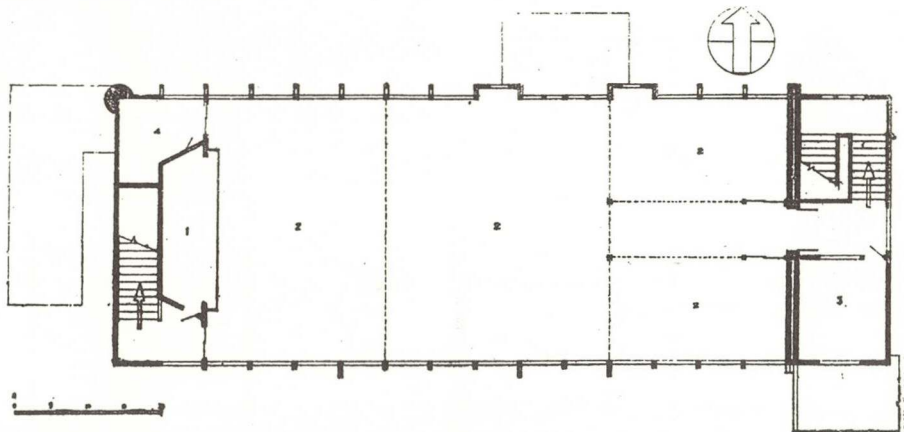
所在地 名古屋市中区宮田町52番地
 設計者 木村建設株式会社名古屋支店 担当者 横山正
 全 上 // 東 晃
 竣工 昭和24年3月31日
 構造 木造二階建 厚型スレート葺
 規模 1階 216.76坪 2階 211.71坪 合計 427.47坪
 外装 正面 人造石塗洗出及振落シ、其他モルタル

内装 途吹付仕上ゲ一部、堅羽目板張りペンキ塗
 床 モザイクタイル張り及寄木張り、其他
 檜フローリング、天井、教室テックス張り
 其他漆喰塗仕上ゲ
 特記事項 正面 控柱ヲ設ケ本柱トトラスニ組堅メ構造
 体一部トス

二階平面図

- 1 教壇
- 2 教壇
- 3 講義室
- 4 講義室

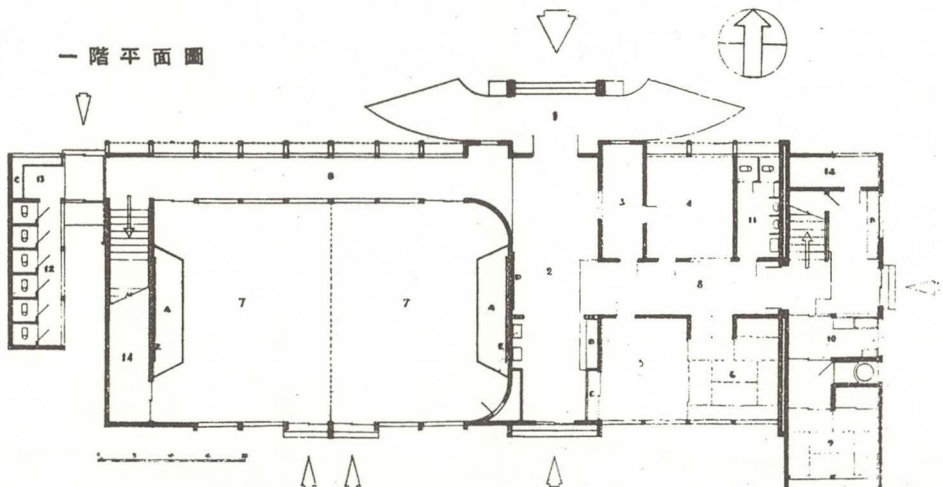
二階平面図



一階平面図

- 1 車庫
- 2 玄関
- 3 事務室
- 4 学務室
- 5 職員室
- 6 教員室
- 7 廊下
- 8 管理室
- 9 炊事場
- 10 職員便所
- 11 生徒便所
- 12 生徒洗面
- 13 生物教室
- 14 教壇
- A 下駄箱
- B 洗面
- C 洗黒
- D 洗黒
- E 洗黒
- F 洗黒

一階平面図



◆ 座 談 會 ◆

名古屋の建築を語る

— 出席者（發聲順・敬稱略） —

玉置 豊次郎（東海支部長
愛知縣建築部長）

濱 一 郎（壽建設工業株式會社
取締役）

伊 藤 鑛 一（日本建設産業株式會社
名古屋支店次長兼建築課長）

佐 藤 四 郎（日本建築設計監理協會
東海支部長）

水 野 金 市（愛知縣建築部
建築課長）

鬼 頭 昌 文（合資會社鬼頭忠兵衛商店
社長）

廣 川 誠 三 郎（名古屋工業大學
工業專門學校教授）

池 部 宗 薫（名古屋市復興局
建築部長）

池 田 源 太 郎（株式會社池田組
社長）

松 永 德 昌（染木建設株式會社
社長）

岡 田 平 藏（土木建築材料協會
副會長）

場 所 —— 日本建築協會東海支部會議室

戦 前 の 名 古 屋



玉置 わが國の大都市は大阪が天正11年秀吉により城下町としてつくられたのが最初で京都は天正18年秀吉により應仁の亂以後非常に荒廢した町が再建され、江戸は同年家康によりつくられ、それに相前

後して數十の中小都市が諸大名の手により全國一齊に出來ているが、これに對し名古屋と駿府、すなわち今の静岡は共に慶長14年に家康によつてつくられております。これは大都市としては最後のものであります。家康は名古屋をつくる前に江戸の大工事の他に多數の城と城下町をつくつておりますので、その豊富な経験を基にして自分の隠居所として駿府を、それから最愛の義直の爲に名古屋を最も理想的につくつたのであります。ですから名古屋の城下町は當時の技術の粹を集めて桃山文化の總決算という形になつて居ります。だから城はいうまでもなく町の位置、町割、宅地割も當時の生活様式から見て全國で最も理想的に出來ています。そういうわけで名古屋は生い立ちから恵まれており、江戸時代は勿論幕府の御三家の一つとして榮え、明治以後も順調の發育をつづけてき

ております。

戦争勃發當初東京大阪はすでに老年都市であるのに對し名古屋は丁度青年都市で、地價が割合に安かつたことと電力が豊富であつた爲に俄に大工場が出來、第一線で使用する飛行機の6割以上が此處で造られたということでありました。平和産業都市である大阪、神戸、横濱が當時火の消えたように寂びれ果て、おつたのに對し名古屋は全市が工場化して、市電の中の人も路往く人も悉くナツバ服ならざるはないという全國異常の發達をしたわけでありました。で、その當時出來た工場も非常に大規模なものであります。

戦 時 中 の 名 古 屋 の 建 築



濱 私は當時三菱關係の工事だけやつておりましたので全面的のことについては他の方からお話しして頂きたいと思いますが……もともと三菱航空機が名古屋にあつて、それを擴充したのであります

が、その立地條件として矢張り家康が城を造つたと同じように食糧が豊富であることや、都市の勞働賃金が安かつたことを、當時工場を立地された方々から承はつておりました。當時の工場建築は

まことに大ブロックシステムで、初めは単位が百坪、千坪でありましたのがやがて萬という単位となり、一棟一萬五千坪から最後には二萬數千坪という工場が建設されるようになりまして、その中で素材から製品になるまで一貫的に行われることになったんです。當時われわれの関係しております或る工場は長さにおいては凡そ3軒以上にも及ぶというものにまでなりました。一口に3軒と申しますが、これを東京で例を探れば、新橋から銀座、日本橋を通つて三越のまだ數軒先までが當時の名古屋の一工場の敷地でありました。これを大阪で見ますと、大阪驛から心齋橋までが一つの工場であつた譯です。この様な大規模な工場がいくつも出来ました。その頃ストーブの端話では、一つの工場の中に人間を入れたらどの位入るか、と計算すると一坪當り二十人入るとすると、凡そその當時の日本の兵隊の全部が大体入つてしまう位の大きさにまでなつていたんです。



伊藤 私は戦時中名古屋住友金屬、豊橋住友金屬、知多の川崎重工業知多工場、四日市燃料廠の一部、豊川工廠の一部、河和の航空隊、加良洲の航空隊位しか関係しておりませんが、その中で住友金屬

今の新扶桑の名古屋工場につきまして申しますと名古屋には三菱もあつて便利だということで素材工場として昭和十五年頃に計畫されましたが、戦争の始めの頃であつたのでゆつたりした道路をもち窓面積も大きくとり天井も高くした——これは後に空襲を受け、燈火管制の時など却つて困つていたようです。それに日本で幾つもない大きなハンマーでプロペラを打つ爲に理想的に龍大な基礎をつくりましたが何れにしても住友金屬は素材工場であつて三菱の工場程龍大ではござりません。しかし塀を作ろうと思つて設計をしたら、電車通りに面した一邊だけで一軒位あつて長いなあという感じを受けたわけであります。ところが戦争もだんだん終りに近づきました頃は、計畫に永久的な考えを捨てて應急の間に合えばいい、ということで、その命令を受けた一つの例が豊橋の扶桑金屬

ですこれはアルミの製板管棒工場で主要工場は鐵骨造建築ですが其他は龍大な敷地に應急的な木造の家で殆ど基礎はセメントを省略しろということで三尺位の杭を打つて粗雑なものになりました。

濱 戦争中の建築に殆んど勿論工場ばかりで、當時われわれは、鐵とセメントとスレートとガラスばかりを相手としていました。



佐藤 あの頃工場建築が非常に盛んになったが、工場に働く人達の寄宿舎とか住宅とかは建てられなかつたんです

濱 附隨して造つています昭和十一年頃から擴充工事が發足したと思うのですが、その當時事務所にしろ病院にしろ、ものによつては鐵筋コンクリート、木造にしても現在の建物より相當程度の高いものでした。

玉置 どなたかの話しだつたが、今の建築家は恵まれている、こんな龍大な建築工事は今までになかつた、だから若い人にはとても勉強になるんだといわれた。ところで全國から徴用工員等が集つた爲に、その寄宿舎や住宅は相當建つてそれらの施設は或程度完備していたようですね。

伊藤 完備したものがありましたが、今は殆んど焼けたと思います。大きさからいえば住友金屬の永徳の寄宿舎は二千人を收容することが出来たんですが、これは出事たとたんにやけてしまいました。これらは衛生設備もよかつた。

濱 それも十七年頃がおしまいでではなかつたですか。それからは建築するより軍需管理部或は軍需省などで材料を貰うのが大きな仕事で、そんな贅澤なものは叱られたんですよ。(笑聲)二年位保てばいい、というので材料を随分削減せられ苦勞したものです。

玉置 私が名古屋に赴任してきたのは十七年ですが、當時は飛行機の工場も小さかつたし寄宿舎の設備は殆んどなかつた。それから後に澤山出来た。だから空襲のひどくなるまでは猛烈な擴張工事をやつたのです。十七年頃は三菱發動機も一棟あつただけで、それ以後に三棟出来、三菱航空

機も私が来てから四倍位になりました。



水野 清

水野 濱さんの今の話では戦争で一年ももてばいいというので資材を節減したというのですが、構造においては相当研究され、技術的には今までにない高々度の発達を見たような気がするんですね。

濱 所要鉄材が三分何厘トンであつたのが戦争末期には一分二厘位でしたね。

伊藤 末期になつて鐵がなくなつてきたから、木造で大スパンの格納庫を造るというようになりだんだん木鐵が混合になつてきました。

濱 木造でも細い部材で組立をやりましたね。それから空襲までの間に必勝の信念ということについてやかましくいわれ、夜も晝も働きました。十九年だつたと思いますが、二キロ幾らの鐵道の引込線を四十五日でとれという命令があつて晝夜兼行でやつたんですが、當時鐵道關係の方が見にとられて感心して歸つていつた事があります。私はその時は出来た製品を送り出す引込線と思つていたんですが、出来上つた時は疎開の爲の設備になつて仕舞つてがっかりしましたよ。(笑聲)

佐藤 戦争の進展につれ、材料の使い方、構造の方法などについて、非常に発達したことは今の話で判りましたが、何かその頃に新しい材料というものは出来なかつたんですか。



鬼頭 喜一郎

鬼頭 新しいものは出来なかつたが、却つて古いものに戻りました。柿板葺、あゝいうものは戦争以前には町の中にはなかつたが、戦争から発達して來ました。(笑聲)

玉置 木毛セメント板やマグネシヤセメント板等はこの時に発達しましたね

空襲の被害

佐藤 空襲については最初濱田博士からハンブルグの空襲の實況などをきいて、非常にひどいものだとは思つていましたが、實際にぶつかるまではあんなにまで慘酷なものだとは想像してもい

なかつた。昭和十九年の冬、眞蒼に晴れ渡つた大空を思いもよらぬ高いところで、白い長い飛行機雲を曳きながら、B29が悠々と名古屋上空に現われた時には恐しいというよりは、たゞもう美しいなあと思つてほんやりとみとれていたほどお目出度い心組でした。その頃は築港とか大曾根方面とかの工場地帯の爆撃が多かつたんですが、昭和二十年一月三日の午後、市街地爆撃として西區の明道橋附近がその洗禮を受けた。今この(會場)建材會館のあるところも、その時は中央郵便局であつて、これも一月三日に焼けたんですね。それから空襲の回数が次第にはけしくなり、規模も大きくなり、遂に三月二日の熱田方面、十二月十九日の廣小路を主軸とした都心部の爆撃で、名古屋は都市としての機能を大部分失してしまつた。それから終戦まで、名古屋は三十何回も大爆撃を受けていたにも拘わらず、その災害を受けた家屋が全戸数の約40%と書いております。空襲回数が頻繁であつて被害の戸数が割合少なかつたことは、一應考えてみる必要があるのではないでしようか。

無論、市民の防火活動が勇敢であり、ポンプの数が割合多かつたこともありましたが、都市計畫が、焼けないように或る程度出來ているとか、家屋の構造そのものにも他の都市と違つて土壁の部分が多かつたなど、いろいろ考えさせられる問題が多いのではないでしようか。

玉置 空襲という名の付くのは、十九年十一月がはじめて、本格的なものは十二月十三日の三菱發動機から始つてゐるんですね。アメリカは本格空襲をやる前に名古屋の一万分の一の非常に精密な地圖を作つてゐるんです。これには元紡績工場であつたが今は飛行機製造工場に轉換したということまでちゃんと出てゐる。又その地圖を見るとわれわれ一般國民の知らぬ事が向うに知れてゐた

その地圖をもつて來て空襲せられたんだからたまらないわけです。空襲の状況は六月を境にして變つてゐますね。五月まではB29で主なところを徹底的にやつゝけ、六月に入つてP51の機銃掃射が多くなつた。偵察だけの場合を除いて、被害のあつた空襲の数をみると、十九年十一月4回、十二月18回、二十年一月が28回、二月が24回、三月

27回、四月28回、五月25回で一月から後はまず毎日あつたことになります。それから主な被害建物をみますと、一月三日に今座談會をやつてゐる場所の元中央郵便局、名古屋ホテル、中央劇場が焼け、しばらくして三月十二日に西別院、熱田神宮名古屋帝國大學醫學部、第八高等學校、三月十九日に那古野神社、大須觀音の本堂、國寶の七ツ寺國寶東照宮は本殿を除いた全部、護國神社、高田別院、御園座、万平ホテル、安田ビル、千代田ビル、勸銀支店、高等工業、五月十四日に名古屋城と前離宮、東照宮本殿、名古屋大學理學部、工學部、五月十七日に東別院、これで名古屋の目ぼしい建物はみな焼けたわけです。(笑聲) 結局焼けたのが千百六十七万五千坪、焼けた戸數十三万五千二十戸、尙疎開したのが三万八百三十一戸、それで今、佐藤さんから名古屋市民が健闘したというお話がありましたが、それを數字で見ますと名古屋の第一次の大空襲が三月十二日で、その時百三十機來て死者六百二人、焼けたのが二万八千六百戸、ところがその前の三月十日の東京の大空襲は同じく百三十機で死者七万八千人で通稱十万といわれており、焼けたのが二十六万九千戸、だから同じ空襲で東京は百三十倍も人が死に、焼けた家も十倍です。次に大阪へ三月十三日に九十機來て、死者三千九百人、家が十三万五千戸焼け、神戸は三月十七日に六十機來て、死者二千三百、家が六万七千戸焼けているんです。だから名古屋の被害というものは、他の都市に比べて桁が外れて少いわけになります。大空襲を受けた數は東京

より名古屋の方が多いようですが、それで被害は一ばん少いのです。これは確かに大奮闘したたまものだと思います。結局他の都市は平和産業都市であつた爲に、戦時中は萎靡沈滞して精神的に滅入つておつた。こちらは元氣旺盛で潑刺として敢闘精神に燃えておつた。だからこれは精神力の比較が被害に現われたのだと思うんですね。

空襲もひどかつたのですが、その時二回地震があつて、その被害もひどかつたですね。

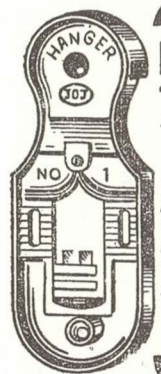
地震の被害



廣川 地震について少し調べて來たのを申し上げますと最初名古屋がやられたのは、十九年十二月七日の十三時頃でした。東南海地震で遠州灘が震源地でした。氣象台の地

震計はスケール・アウトして判らないんですが、震度はあの場所で四というのです。北は酒田、南は九州の阿蘇まで震動を感じており、震源地が海の中ですから、太平洋岸の房總半島の尖端から、紀伊半島の東側一帯がひどかつたようです。その時の名古屋の被害はどの位かということで數字を調べてみると、戦時中のために殆んど信頼すべきものがなくて、氣象台の記録では名古屋市内では港區、南區、中川、熱田方面でやはり市の南の方がひどく、全半壊戸數合せて一万戸、には達しないのですが、しかしこの數字の中に當時の軍需工場はオミットされておりまして、この方の被害が相當大きかつたんぢやないかと思います。われわれの使う震度で表はしますと、名古屋の覺王山附近で調査したもので、〇.二から〇.二五で、築港方面ではこれ以上あつたと思いますが、地震としては激震位のものではないでしょう。

ところでこの地震の一ばん特徴のある現象は、埋立地盤が非常にプラスチックであつた爲に、荷重のかゝつた處が沈下して、床が降起したのです。工場内部では、機械が段違いになつて使えなくなつてしまいました。われわれが歩いて見たところでは、築港方面の二階建てで傾いていない家は少いんですが、又潰れてしまつたものも少かつた。



建築 (J.O.J) 金物

ドア J.O.J印ドアハンガー

工場、倉庫、ガレージの扉に御使用を御奨め致します
(全金物店にあり)

代理 湯浅金物株式會社
大阪・東京

店 岡谷鋼機株式會社
大阪・名古屋・東京

製造元 大同鑄造株式會社
大阪

山手の地盤の固いところでは倒れたものは少かつたようです。その後半田の飛行機工場に行つたのですが、やはり建物の崩壊してしまつたものは少いんですが、地盤の不同沈下で大事な柱が坐折したり、棟が蛇行したものがざらにあります。結局、工場機能に大打撃を受けてしまつたのです。それを何とかしようということで、生徒を連れて行つて見たんですが、資材がないものですから、落ちてこないように支柱をする位のものでした。そんなふうで、生産ががた落ちになつていてところえ、二十年一月十三日の三河地震というのがありました。これは大きさからいへますと、東南海地震に大体似ているのですが、水平震幅六五ミリですから強震程度でしょう。この地震は局部的でありまして、主として安城、大濱、西尾邊が中心でありましたが名古屋でも驚きました。前に相當やられたところを、駄目押しされた爲に、工場は潰れた形になつてしまつたと思います。



池部 私はその頃軍需省にいましたが、當時地震の被害を B29 三千機の被害だといつておりました。恐らく民衆が感じていたよりも致命的なもので、第一回の駄目押をアメリカでなく神様にされてしまつたんですね。終戦後私は名古屋に来てからちよいちよい工場を見ますが、空襲によつて焼けた以外に、地震で工場の床がでこぼこになつてこの爲に機械が沈下したり押し上げられただけではなくて、精密度をなくしてしまい、生産機械とし

て働かなくなつたということが大きかつたらしいもう一つ感じたことは工場の配置ということで、やはり構造と強度計算だけではいけないんで、地盤も頭に入れた建築計画をやらないと、大空襲と同じだけの被害を受けるということをお互認識し合わなければいけないと思いますね。

玉置 池部さんは今、B29 三千機の被害といわれたが、私は一万機と思つた。(笑聲) 丁度レイテ戦争の始まりかゝつたとたんだつたので、地震計は高台にあつたが、軍需工場はみな沖積層にあつた爲、地震計に感じた以上の被害を受けているんですね。それで地震の一般的性質ですが、地盤のいへ處と悪い處でこんなに違ふかということをも痛切に感じたわけでありまして。でこぼこにも程度があるんだが、一ばん甚だしいのは隣同志に並んでいた機械が三尺位の段がついたんですね。で同時に電気給水排水が全面的に駄目になつて、建物は倒れなくとも工場機能は停止し、大部分の工場を全速力で復舊しても三ヶ月間は生産が出来んといわれていました。あの時、出来上つた飛行機が廣場においてあつたら、ゆすられて機体が半分ほど土の中えめり込んでしまつたんです。それから建物が傾斜しないで、その儘三尺位もめり込んでいたのが相當ありましたが、あゝいう被害はよその地震にはないのですね。

濱 とに角、精神的なショックは非常に大きかつたんで、みな神風を信じていたのが。(笑聲)

戦後の名古屋

池田 空襲或は地震の後に、いよいよ復興とい

理想的床材料

リノリユーム リノタイル



特製リノリユーム糊

東洋リノリユーム株式會社

本社・工場 兵庫縣伊丹市伊丹五五八 電話伊丹1・51・69

大阪事務所 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル
電話北浜375・376

東京支店 東京都中央區銀座四丁目三和ビル
電話京橋1701・2564

うことになつたわけで、何としても今国民全体が一ばん困つてゐるのは住宅なんです、住宅の不



足勝であるのに反して料理屋旅館というようなものは豪勢に建てられております。一方終戦後は猫も杓子も請負々々といつて、かなりいかわしい業者があつたと思う。従つて良心的でない建築が多少實現したことはまことに遺憾だと思います。

松永 今、良心的の建築というお話しが出ましたが、私は終戦直後、今の商賣にかゝつたんですが、當時としては良心的な建築をやつたつもりなんです。ところが何しろ資材の欠乏と技術が非常に低下しておつて、職人でも腕のいいのは復員してきていないということでした。



で合理的の設計をやつても實現が困難で、勢い掣肘を受けた最少限度のものしか出来なかつたんですよ。結局、良心的にやつたつもりでも、結果としては良心的でないとい

われるものになつてしまつた實情だと思います

池田 空襲中に拵えた防空壕のように、お恥しいようなことにも汗水たらしてやつたわけですがあれと同じように、戦争中田舎に疎開していた人が町に歸つて、何でも商賣が出来さえすればいいというんで、バラック建築が計畫されたんですがその場合、建築家に頼めばいいことを、相當金を使いながら怪しげな大工さんなどに頼んでばたばたり、結局は後悔しているんですね。

伊藤 名古屋の復興が、他の大都市に比べて早いということはよく聞き、私もそう思つたが、これが最近になつて逆になつてね。東京などと比べても、名古屋は驅出しは早かつたが、この頃はその割に進まないという感じがするんですね。池田さんのお話しのように、終戦直後は兎に角やれということで、余り質のいい復興ではなく、間もなくやり直さねばいけないということになつたんですが、今ではもうしつかりした本建築をする時期に到達していますよ。幸い防火建築は許可も樂に

なりましたので、鐵筋コンクリートのものが大分出来つゝありますが、これは名古屋の將來として大變喜ばしいことです。

濱 伊藤さんのお話の、復興が速いか遅いかという問題について、私いつも感ずるのですが、バラックの假建築は問題にする必要はないんで、その後の本建築についての復興状況という點で、觀察してみたいと思うのです。所謂本建築というものが着手されだしたのは、比較的早かつた。ですが、しかしながら、話は戻りますが、空襲中多くの人が早く疎開してしまい、其處に落付いてしまつてなかなか歸つてこなかつた、ということが、その後の復興を遅らせてしまつたとも思はれるし、又、名古屋の特殊性というか、從來の名古屋人は非常に引込思案であることが、復興を遅らせたのではないのでしょうか。

それから、東京などの甲防地區と名古屋の甲防地區をみると、東京では甲防地區に設定されているのは、丸の内附近ときいてますが、これは都市復興百年の計からいえば、目抜通りは確かに甲防地區の方がいいとは思つたのですが、名古屋の場合においては目抜通りが甲防地區で、耐火構造でなければいけないということから、最近復興を阻害しているようにも思いますが、こういつた點で何か、簡易な耐震耐火構造のものを考へたらと思つています。

水野 それは一應御尤もだと思いますが、縣としても何とかして木造と鐵筋の工費の差額に相當するような補助金を出しても耐火建築をしていただきたいと努力しておりますが、豫算關係で實現出来ない状態です。が何か新構造による耐火構造でもつて代用して、復興を阻害しないようにやつて頂くよう、各關係の方々にお願いしているわけでありまして。

佐藤 今の話の甲防地區をはつきり決めた爲に復興が阻害されるということは、現在の状況において、私はないと思う。それから經濟狀態から見て、確定した甲防地區に耐火建築でなければ建てさせないということを、いくらか緩和してやろうという提案に對しては、私は反對です。關東大震災の時、一應甲防地區の計劃が考へられて、要

所々々はみなそれでいこうということになり、時の後藤長官も強くそれを主張されたんだが、それでは復興が遅れるという議論が起つて、とうとうでは緩和しようということになり、緩和した爲に東京が其後十何年経つても結局立派な都市にならず、紙と木のお粗末な燃える家ばかりで空襲を受けるようになった。だから、こういう時に思い切つて、或る一部分を甲防地区に設定するということは、われわれの子孫の爲にもやるべき義務がある。名古屋の甲防地区は廣小路ですが、廣小路に建てる建物は絶対、耐火建築でなければいけないということを主張したい。これは名古屋の爲に、どんな苦勞をしても是非實行して頂きたいと思います。

濱 私や水野さんのいう簡易という意味は、鐵筋、鐵骨、煉瓦の構造だけが耐火構造であるということはどうかと思うんで、もつと進んだ、經濟的で、スピード的で、しかもあらゆる點を耐火的に工夫してやるべきではないかということです。

池部 今おつしやつている點を、角度を變えてみて、こういう地域的の防火ということは、話が派手な爲に、非常に問題にされ、都市の復興はいわゆる商店街の復興をもつて復興ということになり勝なんです、地域的の考え方は第二次にしてむしろ用途的の耐火構造をもつとついでで考えねばいけないと思う。一例を挙げますと、名古屋の學校は實に慘憺たるもので、中學校は九つの内四つ焼かれ、小學校は百三十の内約九十、幼稚園は四つの内三つ、全体で百四十三の内九十六が焼かれて、學童の勉強場所もないようになってしまった。これは殆んど、木造であつて、鐵筋コンクリートのものは小學校が八校、中學校が二校ばかりあつただけで、私は地域的にのみ防火建築をやつても、それはナンセンスであると思う。建築の規模用途から強い統制をやつて貰いたい。私自ら官公廳におつて、だらしなわけですが、官公廳の建物が木造ということは最もいけないのではないか、で商店街等を防火建築にするということは一種のモデル地区といえますか、そういうものをつくるという効果はあつても、國家的にはそれ程大きな効果はないと思いますね。そんなような譯

で工場、官公廳を是非とも防火的にしたいものです。尙さき程もおつしやいましたが、甲種乙種の技術の内容をもう少し用途別に考え直してみたらどうでしょうか。用途によつては、火事になり難いものと、相當耐火的であつても、建物が参つてしまうものがある。これは中々大事なことで、例えば學校のような場合では、周囲が割合廣闊であり内容物も可燃性が少いから、學校を甲種防火地区に建てる場合に、必ずしもコンクリート四寸の厚さはなくてもいいんぢやないか。内容、用途から法規的に細かく規定するが、出来なければ建築家が設計の時に工夫すればいいと思います。

佐藤 耐火構造は法規の上では鐵筋コンクリート、鐵骨構造というように限られておる形ですが、耐火構造の實質を備えたものであれば、必ずしもそういうものでなくても、何か行き得ると思うんですね。だから、耐火構造というものを鐵骨構造、鐵筋コンクリート構造と限らないで、われわれ建築家が考えていく必要があるのではないか、それから、池部さんのおつしやつた、地域的にという話ですが、地域的に甲防地区とされているところは大抵、都市の一ばん繁華な道路に沿っているようです。都市の一ばん繁華街には、その都市の財産の殆んど大部分が集合しておりますし、人にしても一ばん密集した地域だと思います。そういうところが焼けてしまうと、その都市の損害は非常に大きいんぢやないかと考えられます。無論、官廳のすべての施設、特に學校の施設は、耐火構造で全部やつていただきたいが、在來きめられた甲防地区も、是非耐火構造でやつていただいて、都市の資財をなるべく失くさないような方

家のクリーニング

- ★ 古家が新築同様となる美素工事
- ★ 新築家屋にお手入のいらぬ美素工事 請負
- ★ 石・タイル洗淨工事

株式会社 美素工業所

大阪市東區瓦町(堺筋)三和ビル三階

電話 北濱 5888番

法を講じた方がよくはないかと思うんです。

国民体育大会の施設

玉置 今年、愛知縣で國民体育大会が開かれるので、今盛んに工事が始まっていますね。

水野 競技種目と開催都市を申し上げますと、大体現在決っておりますのは、名古屋市で行うものは、陸上、硬式野球、庭球、ラグビー、ホッケー、水泳、バスケット、ボクシング、レスリング、重量挙げ、自転車、バドミントン。豊橋では軟式野球、馬術、自転車。岡崎は排球。一宮は送球、体操。刈谷町で蹴球。津島市で相撲。半田市で卓球にヨット、となっております。

池部 名古屋の施設が一ばん多いようですからそれを申し上げます。國体施設で一ばん目立っておりますのは、瑞穂の綜合グラウンドで、この中に出来るものは陸上競技場とラグビー場で、陸上競技場の方は總工費一億圓で、建築の方はその内五千八百五十万圓ばかり使います。規模でいうと建坪千六百坪の鐵骨メインスタンドで、延べにすると三千坪ばかり、收容人員は一万三千人、その他に土のスタンドがありますので、合計すると四万三千人がは入れますから、オリンピックが名古屋にきてもやれるんじゃないかと楽しみをもっております。この構造は出来得れば耐震耐火というように考えていましたが、いろいろ工夫して一應火事の出そうな分と、余り出そうにない分を想定して、火事の出そうでないところは鐵骨をむき出しにし、火事の出そうところはコンクリートで防火的に、鐵を保護するに必要な厚みだけ——こ

れは濱田教授がいろいろ研究してくれますので、その厚みでカバーすることにし、嚴密な耐火構造ではありませんが一應火事でまいつてしまわないように考えたこと、もう一つは、ラーメン構造をやめてブレースで横の力をもたせた。だからジョイントのところが簡単になる。ラグビー場は總工費二百五十七万圓ですが、建築的部分は小さいもので、二十八万圓程使つて造りました。次に大きいのが金山橋の体育館で、これはバスケットボールの競技場として、一應國体では定められておりますが、バスケット以外にバレーボール、拳闘相撲等大抵の競技は出来るようになっておりますなお將來はこれを日本一の見本市會館に使おうと思います。實は御承知のように、日本に見本市會館は現在一つもない。ブラッセルの見本市などは世界的な市が年に一回か二回立つのですが、これは施設がよくないと世界の商人に関心をもつて貰えないということがありますので、名古屋でこれをモデル的にはじめていこうということで、熱を入れたわけであります。建築費は總工費七千百万圓を豫定し、差當り五千五百万圓で一應建物を建てます。建坪は千二百坪で延べが千九百二十五坪ちようど東京のスポーツセンターと同じで、賣店とか玄關とかの附屬的部分を皮薄くしたようなもので、相當大規模なものになります。軒高も四十何尺です。これは地震で被害を受けた、愛知起業の飛行機組立工場をそのまま解体して建てるので、安く出来ています。もう一つは、やはり完全な耐火構造ということになると、資金も資材も許されないで、火事で被害を被り易いところだけ

ノザワ

ポルトランドセメント

登
録



商
標

野澤石綿セメント株式會社

彦根工場

正味 50 斤入

ノザワセメント・ノザワスレート・ノザワ石綿

野澤石綿セメント株式會社

本社・神戸市生田區西町三六番地

電話神戸元町④2568,2959.

營業所・名古屋市中區下長者町二丁目二〇番地

電話名古屋本局②591.

工場・滋賀縣彦根市古澤町二七一番地

電話彦根 595, 782, 1005.

コンクリートでカバーするということになっております。この二つが目立つたもので、これで建築に使う金の七、八割は使い、後は小さく庭球場は硬式軟式両方合せ総工費としては約七百九十万圓その内建築は二百万圓で建てました。但しクラブ・ハウスのよらなものは、前から出来ていまして收容人員は両方合せて確か七千人位。次に拳闘場は鶴舞公園の中に、國体拳闘場というだけでなく將來屋外音楽堂として立派なものを残そうという考え方で、工費は一應四百二十万圓、内建築費が約百万圓ですが、尙百万圓を他から繰ぎ足して、ロスアンゼルス音楽堂まではいきますまいが、名古屋の一つの名物にしてみようというわけで、千二百人の見物人が野外演奏を聞けるようになります。ホッケー場は百八十五万圓程で、内建築に二十六万圓を使い、收容人員四千人としております。弓道場は二百万圓ばかりかけ、弓の道場として体裁を整えたものにしたいと思っております。自轉車競技場は全國で二つ三つの中の一つだそうで、これは國体の豫算とは別に金を捻出して、既に三千万圓ばかりかけております。こゝには建築として鐵骨スタンドを造りますが、様式は瑞穂の様式と同じやり方で一應耐震耐火にして計劃着工しております。その他、レスリング、重量挙げ、バドミントン、山岳、野球などは在來の施設を利用することになっていきます。大体そんなことで、名古屋にこれだけのものが出来ると、相當立派な体育施設が揃うことになります。

愛知特産の建築材料

玉置 こんどは一つうんと儲けて貰はねばなら

んから、建築材料で愛知の特産品を紹介しあいましょうか。

鬼頭 愛知縣の特産建築材料というと、三河の塩焼瓦と赤津の薬かけ瓦があります。

池部 私は戦争中にそういう方面に関係しておりましたが、セメント瓦でも全國有数の生産地です。

鬼頭 それから檜、樅もありますね。樅はこれから板にして愛知縣が之を全國的に供給しています

池部 それから將來この地方で有望なのは、アルミニウムの加工材ですね。

玉置 アルミニウムはよそではどこで作っているんですか。

伊藤 おもに日本輕合金の蒲原工場で作っています。但しこゝは素材で、展伸加工業者の主なものとしては名古屋で新扶桑金屬工業、山口縣長府の神鋼金屬、日光の古河電工、大阪の日本アルミニウム、高田アルミニウム、大阪アルミニウム等があります。



岡田 名古屋の建築材料としてはどうしても陶器ですね。タイルと衛生陶器です。ベニヤ板も名古屋で殆んど産しております。

玉置 フローリングもありますね。

池部 厚型スレートも、生産數量のパーセンテージからいえば少いが、品質の順位からいえば高いですね。

營業品目	ノザワ浪型スレート	ノザワセメント
	六甲スレート	浪型黒鐵板 販賣並=工事請負
	石ツクス	其ノ他建築材料

株式会社 野澤幸三郎商店 名古屋出張所

名古屋市中千種區都通四丁目一四番地 電話千種(73)一二八九番

本店 神戸市生田區西町三六番地(興銀ビル五階) 電話元町④二五六八番二九五九番

支店 大阪・門司・東京

工場 兵庫縣本山・東京・彦根

出張所 姫路・加古川

北海道山部・門司

玉置 こゝで特に欠乏しておつて、作れるようになるといゝがという材料は何ですか。

鬼頭 名古屋で出来ないのは、アスファルト・ルーフィングで、あれは昔からやつてみても出来んですね。

池部 それと、名古屋で私困りますのは、生産技術が悪いというか、建築部品が東京、大阪ものに負けるんですね。こゝで名古屋のメーカーで立派な人が出て貰いたい。主にそれは金属製品です。

池田 建具金物は、さつきのお話しの軽合金などを利用して、昔舶来品であつたメタル・シーリングなんというものを造つたらいいでしょうがね。

玉置 飛行機の部品を相当作つていたんですから、あれからみたら建築金具はわけなく出来ると思いますがね。——それから、そのうちにこゝは豊の主要産地になりますよ。

池部 建築材料協會の方で、力を入れていただきたいのは、絨氈、窓掛などで、工場はあるんじゃないかと思いますが、これを育成する余地があるような気がしますね。岡崎方面まで、地域を擴ければ、全国的に優秀地區になり得ると思います。

伊藤 一宮の大同毛織へ参りましたら、絨氈は立派なものが出来ています。輸出向きですが、…

岡田 リノリウムなどろくなものがないのたが あゝいうものも製造する機運に向うといゝんでしようがね。

鬼頭 市場が名古屋だけでは狭いから、あゝいうものを考えてもこゝでは捌ききれないんです。で、東京大阪へ賣ろうとすれば経費がかかることになる。

伊藤 思い切つて、國內だけでなく、貿易にまで力を入れて大量につくるというようにしたらいいと思うね。

将 来 の 名 古 屋

玉置 まだ大分焼跡が残っていますが、將來これをどういう風にするか。これは大きい問題で、どちらにしても町の人に任せておいたのではいけ

ないんで、われわれがリーダーシップをとらなければいけないのですが……焼ける前の名古屋の建物は大分郷土色があつたんですね。表の屋根の

上に秋葉さんや津島さんや熱田さんをお祀りして……。(笑聲) あゝいうものはなくつていいのでしょうか。

佐藤 これから新しい郷土色を拵らえていこうじゃないですか、

池部 郷土色といえば、名古屋のペンキ屋は確かに色がいいですね。この間大阪へ行つたが、やはり名古屋の方がいい。だから名古屋には何かいい感じがあるんですね。

玉置 木造で割合大きなものが建っているんですが、東京、大阪に建っているものに比較したらどうですか。デザインなどはそうひけをとらないと思うんですが。

濱 銀座などを歩いたりして、その雰囲気接すると、何か新しいセンスを得たような気がするそれは、どれということなしに大阪よりも東京ですね。大阪にもいいところはありますが……

佐藤 終戦後の名古屋のデザインは、何かいやなところがある。いやというとおかしいが、何か變つた優秀なデザインが出来てくると、皆がそれを真似して同じような取扱いの、しかもきまつて拙劣なものが、ずらりと並んでしまうから、折角面白いものも面白くなつてしまう。あゝいうことを打破して、一ついいものが出来たら、それを真似ず、もつといゝものをやろうという氣持を起して貰いたい。イージーゴーイングなやり方は樂ではあろうが、それでは建築家としてまことに卑怯であると云はねばならぬ。

水野 竹中の支店が出来て感じがいいということ、第一生命あたりもあの感覚で設計してくれということでしたが、そういう點が影響しているんで、それを反駁すると設計させて貰えなくなつてしまうんですね。

玉置 皆さんお忙しいところを大變長い間お話し願ひまして有難う御座いました。

建築資材への高周波加熱の應用

篠 原 卯 吉
大 島 重 藏

高周波加熱が現在建築資材へ應用され又はされんとしているものは木材の乾燥及び合板、ハードボード及びプラスターボード等が主なものであるところで斯様なものに應用すると如何なる特徴があるかをこれから述べて見る事にする。先づ順序として高周波加熱の原理としては誘電体損失を利用したものであるが、これは一般に熱の傳導を必要としない故、熱の不良導体を均一加熱するに適當である。之の原因は一般に物質は分子より成り立つが、之の分子内には既に帶電性を帯びたもの（有極分子）と然らざるもの（無極分子）とがあるが、後者などでも高周波電界を受けると一時的に何れも帶電性を帯びたもの、即ち双極子になる之の双極子が電界内で動かされようとする時、發熱を伴ふものである爲め熱の傳導が不要であり、而も内部的に加熱し得る譯である。之が高周波加熱の特徴である。處でこの場合の發熱量Hは誘電体損失 $P \text{が} P = 2\pi f V^2 C_0 \cdot \epsilon \cdot \tan \delta$

f = 周波數

C_0 = 試料の誘電率 ϵ が 1 である時の靜電容量

V = 印加電壓

ϵ = 誘電率

$\tan \delta$ = 誘電体損失係數

であるから、毎秒、 $H = 0.24 P \times 10^{-13}$ カロリー
の熱が生ずる。従つて若し平行板電極間に試料を入れた時を考へれば發熱量Hは

$$H = 1.33 \cdot A \cdot d \cdot f \cdot E^2 \cdot \epsilon \cdot \tan \delta \times 10^{-13} \quad \text{カロリー/秒}$$

となる。但 d = 平板電極間の距離

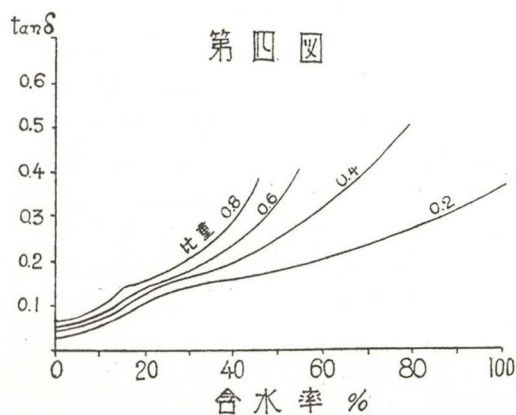
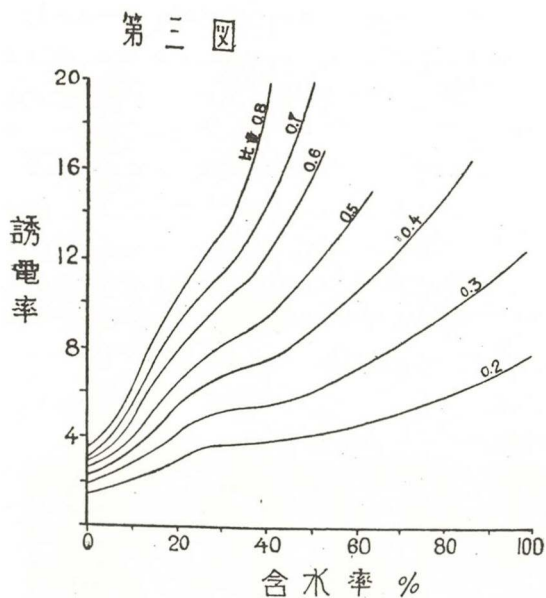
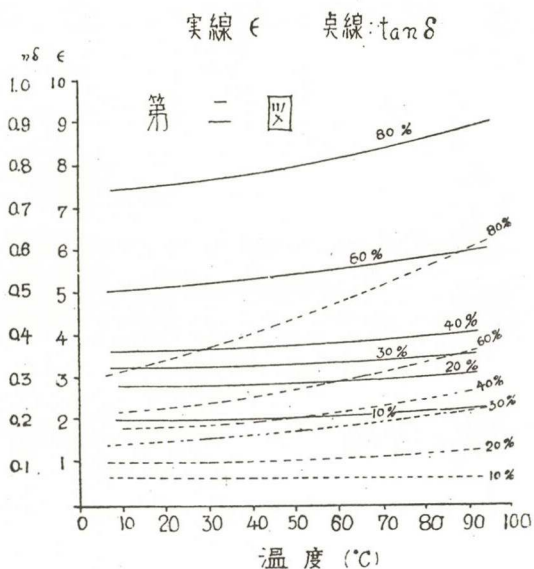
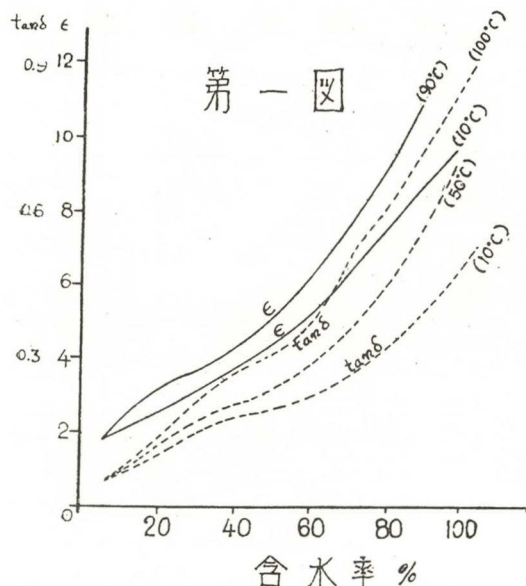
$$E = V/d$$

A = 平板電極の面積

之の式より分る様に之の場合の發熱量は加へる周波數 f に比例し、加へる電位傾度 (E) の自乗に比例するが、又物質に特有な値である $\epsilon \cdot \tan \delta$ に比例するものである。處で之の $\epsilon \cdot \tan \delta$ は色々の條件で變るものであり、例へば同一の物質でも水を含んだ時と然らざる場合では大いに異なるものである。第一圖、第二圖は木材に就て含水率、溫度に依つて誘電率、誘電力率の變化狀況を示す、又第一表は材種に依る誘電率、誘電力率の變化を示す。一般に樹種の差を比重にて分類すれば第三圖第四圖、第五圖の如くである。

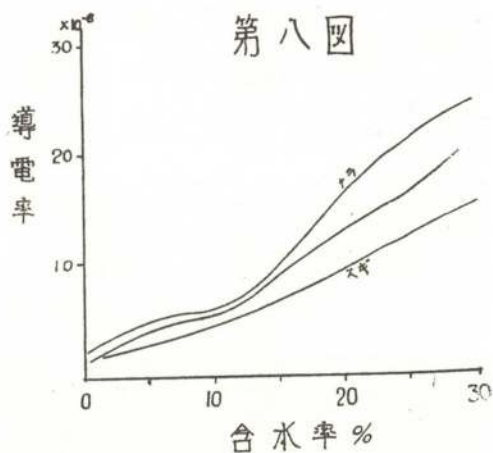
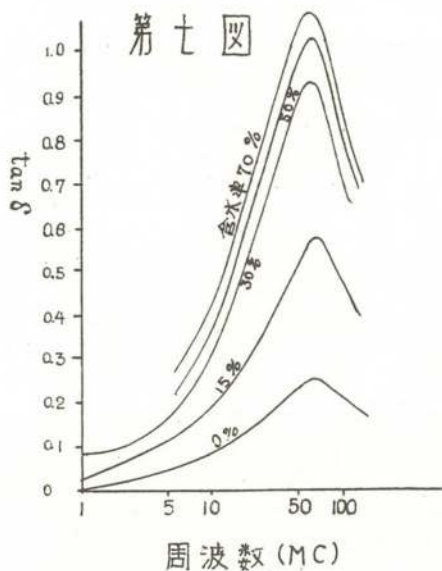
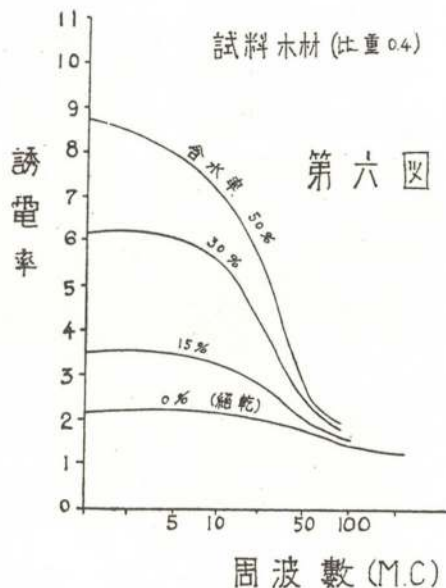
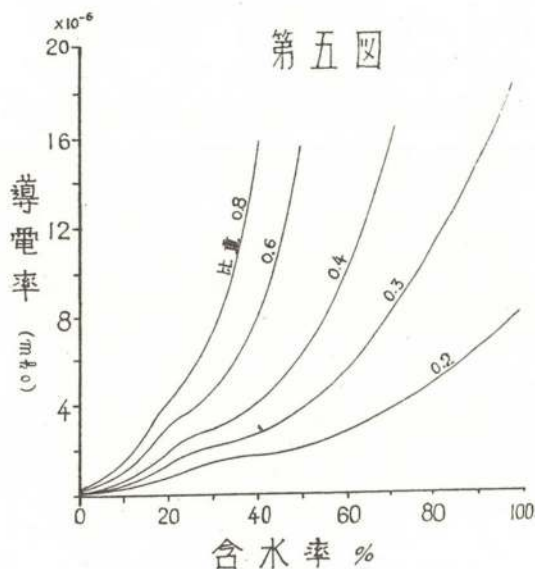
第一表 (周波數 5MC)

樹種 含水率	スギ		ヒノキ		エゾマツ		モミ		クルミ		カツラ		ナラ	
	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$	ϵ	$\tan \delta$
0	1.7	0.022	—	—	—	—	—	—	2.25	0.037	2.4	0.023	3.0	0.062
5	1.7	0.052	—	—	3.0	0.050	2.8	0.055	2.80	0.060	2.4	0.039	4.0	0.065
10	2.2	0.070	3.2	0.043	—	—	—	—	—	—	2.8	0.065	6.1	0.078
15	2.5	0.090	4.0	0.050	—	—	—	—	5.3	0.142	4.4	0.100	8.8	0.110
20	2.9	0.110	4.8	0.077	—	—	—	—	—	—	—	—	11.0	0.145
30	3.4	0.145	5.8	0.220	—	—	—	—	—	—	—	—	14.0	0.165
40	3.7	0.180	7.2	0.310	—	—	—	—	—	—	—	—	16.5	0.196
50	4.25	0.200	8.8	0.430	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
60	5.0	0.220	10.4	0.520	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70	6.5	0.266	12.3	0.620	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
100	9.5	0.470	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



又誘電率、誘電力率は周波數に依つても變る。例へば第六圖、第七圖はその一例である。又高周波加熱する時、試料の導電率も問題になるが、含水率樹種に依つて第八圖の如く變る。即ち木材の誘電率、誘電率、導電率は木材の比重、樹種に依つて相違し更に温度、周波數、電位傾度等に依つて變るものである。即ち一般には温度の上昇に依り誘電率、誘電力率、導電率は増加するが、特に高含水率になる程、又比重の大なる程變化は著しい

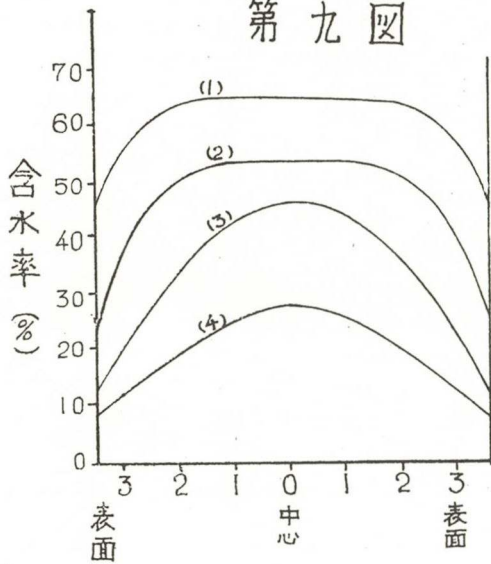
又上圖の如く周波數に依つて誘電特性が變化する故、木材乾燥に於て周波數の選定は加熱能率の點より問題ではあるが、實際には寧ろ木材内の定在波、負荷回路の調整の難易等で決まる場合が多い普通は 5MC 附近が用いられている。一般の木材に於ては内部の水分分布が一樣でなく水分傾斜を有する場合に於ては各個所の電氣的性質が異なる故發熱も一樣にならない。今檜 (比重 0.4) 厚さ 7 厘の木材の水分分布が第九圖の如くである時の 5 M



Cに對する電力分布は第十圖の如くなり大体一樣と見做し得るのである。若し之れを蒸氣又は電熱器に依り外部より加熱乾燥すると第十一圖の如き電力分布になり、溫度上昇の時間は第十二圖の如くなる。第十三圖は一ヶ月水に浸した檜材に 5 MC の高周波電界を加へて乾燥した時の水分分布を示すものであるが高周波電界を加へる時間が12時間以上になると水分分布がほぼ均一になる。即ち乾燥時間が高周波加熱の時は蒸氣其他の外部加熱

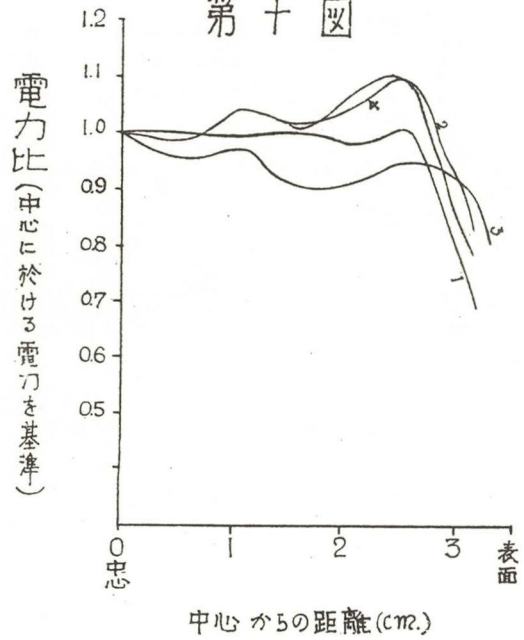
に比し著しく短縮される事が分る。處で木材乾燥に於ては表面固化の現象等に依り表面に亀裂が入らない事が必要である。之の點は高周波乾燥機構を考えれば(木材工業昭和廿三年1~4月號参照)當然であるが、事實表面化は殆んどなく、亀裂も非常に少い。従つて歩止りも非常によい。然し高周波乾燥では余り電力を入れ過ぎると、木材内部に大きな陥裂を引起す事になる。これは内部の水分が外部に流出する速度以上に内部の溫度が上り

第九図

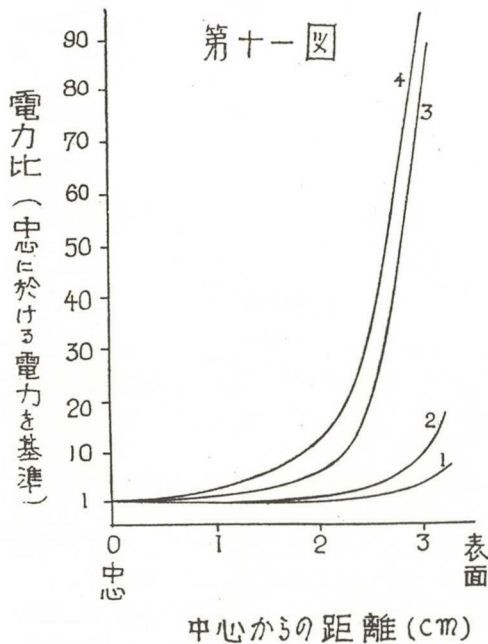


材の厚さ (cm)

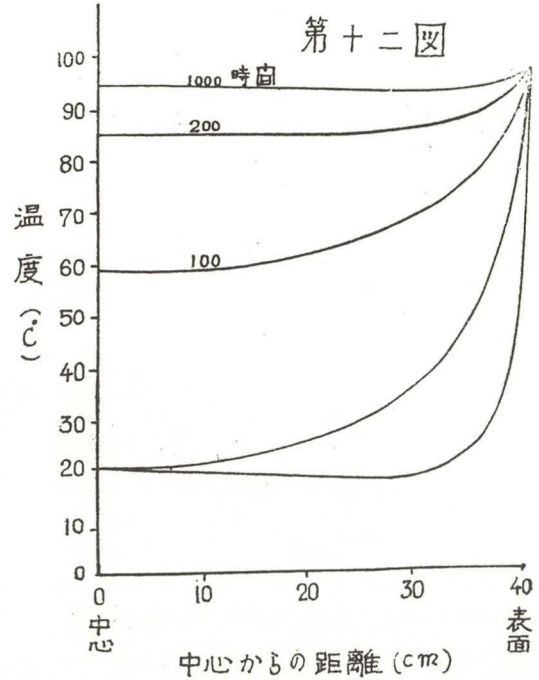
第十図



第十一図

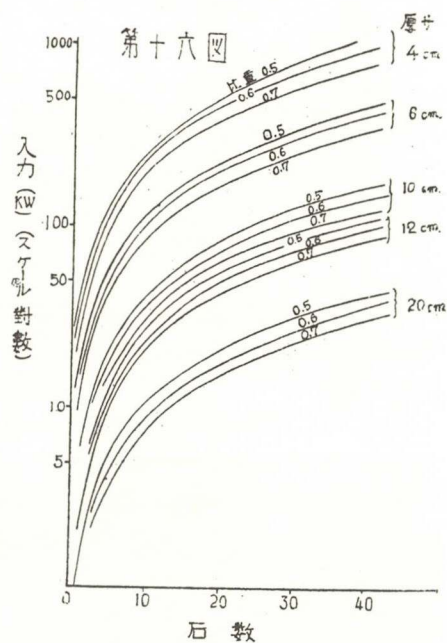
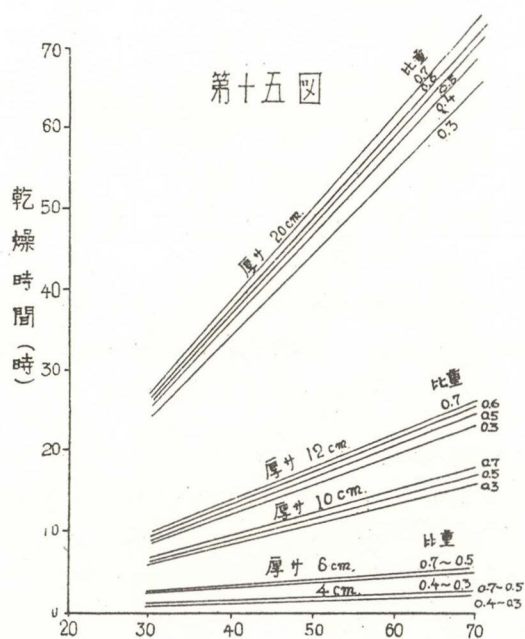
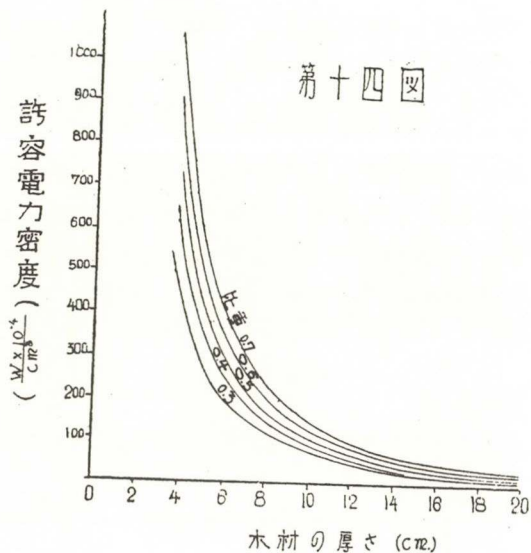
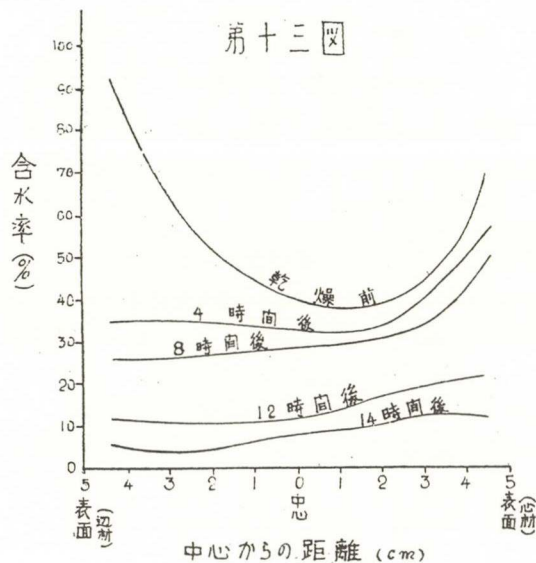


第十二図



蒸気圧が大になるからであり、之の爲めには木材内に注入する電力を制限しなければならない。第十四図は木材の厚さと許容電力密度との関係を示している。又之の時の乾燥時間の関係は第十五図の如くであり、之等に対する石数と高周波発振器

えの入力（出力は約入力60%）との関係は第十六図の如くである。（具体的事に就ては最新の高周波應用（C.Q社發行）第五編等を参照され度い。）處で實際木材乾燥をなす場合問題になるは積み方及び乾燥室内の條件、即ち木材周囲の溫度



湿度及び蒸気圧等である。棧積は電界の方向に適當な厚さの棧を置き積載すべきであり、板材等に適當であるが、大きな角材等では平積がよい様である。此處で云ふ平積とは木材を直接積載して行くものであるが之の場合は全体が一個の大きな木材として取扱ひ得るもの故、内部陥裂を防ぐ爲めに電力密度を小さく選ぶ必要がある。又これでは木材の自重による加壓のある爲め反り等を最小限

に押える事も出来る。此の時積み得る体積は印加する高周波の周波数 f に關係して来る。即ち各部の温度のむらを10%以下に押えるには縦、横の寸法は約 $\frac{3 \times 10^8}{f \sqrt{\epsilon}}$ 米以下にし、高さは $\frac{3 \times 10^8}{2 f \sqrt{\epsilon}}$ 米以下にしなければならない。(但 f =周波数サイクル ϵ =誘電率) 従つて体積の増すにつれ周波数は低くしなければならない事が分る。次に木材周囲の

温度、湿度等即ち乾燥室内の状況であるが、木材外周温度は低い方がよい。それは乾燥機構よりみて當然の如く、木材内の温度勾配により水分は移動するからである。又木材表面の亀裂を防ぐためには木材外周の湿度、蒸気圧を適当にしなければならない。例へば12櫃の柱の角材10石を乾燥する場合に表面温度を70°C、中心温度を120°Cとしたときの許容電力密度、全許容入力、及び木材表面の1立方櫃當りの熱傳導率を0.000278 カロリー/平方櫃・秒・°Cとして求めた外周温度は第二表の如くなる。

又第十四圖の各電力密度に對し木材表面に水分傾

第二表

含水率	許容電力密度	全許容入力	外周温度
50%	0.00658 W/cm ²	18.3 KW	36.0°C
30%	0.00468	13.0	45.8
20%	0.00945	26.2	48.3

斜を生じないために必要な外周蒸気圧は第三表の如くなる。(これは木材表面温度を70°C、比重0.3に於ける蒸發係數入を 5×10^{-5} g/kg/cm/sec.とし且λは木材の比重に反比例するとし又λは木材表面の蒸發係數αをλの10倍と假定して計算したものである。)

第三表

材の厚さ 比重	4 cm		6 cm		10 cm		12 cm		20 cm	
	蒸気壓	温度	蒸気壓	温度	蒸気壓	温度	蒸気壓	温度	蒸気壓	温度
	kg/cm ²	°C	kg/cm ²	°C	kg/cm ²	°C	kg/cm ²	°C	kg/cm ²	°C
0.3	0.2908	68.0	0.3055	69.0	0.3134	69.4	0.3148	69.6	0.3168	69.7
0.4	0.2779	67.0	0.3003	68.8	0.3117	69.4	0.3135	69.6	0.3164	69.7
0.5	0.2681	66.0	0.2938	68.4	0.3100	69.4	0.3124	69.6	0.3160	69.7
0.6	0.2576	65.2	0.2911	68.1	0.3083	69.3	0.3112	69.4	0.3155	69.6
0.7	0.2526	64.8	0.2899	67.8	0.3075	69.3	0.3107	69.4	0.3153	69.6

(但、温度は蒸気壓を飽和蒸気壓と見做した場合の對應温度を示す)

即ち第三表より明かな如く木材表面の急速な乾燥を防ぎ水分傾斜を無くするためには外周蒸気壓は殆んど木材表面温度70°Cに對應する蒸気壓に近くなっている。高周波乾燥を實際一年間H會社に於て毎日運轉した結果に依れば昭和廿三年の物價指數に於て石當り338圓65錢であり(天然乾燥費は1049圓10錢であつた)全費用の内譯は第四表の如くであつた。

以上は木材乾燥を例に取つて高周波乾燥の問題を述べたものであるが、全様な事は合板、其の他に對しても當嵌る。ただ合板等では乾燥なればよいが接着となれば

第四表

	全費用に對する割合
發振管消費費	24.2 %
整流管 "	3.2 %
人件費 "	42.3 %
電力費 "	12.8 %
設備消却費	8.4 %
雜費	9.1 %

ば木質部と接着劑との複合体である。斯様な物に

於ては所謂選擇効果の問題が入る。即ち周波數の適當なる選定により接着劑の温度を木質部より大にする事も出来る。これに就いては前述の最新の高周波應用(C.Q社發行)又は木材工業昭和廿三年一月一四日號を参照され度い。

要するに高周波加熱の特徴は上述の如く熱の不良導体を能率よく均一加熱し得る特徴があり、又複合体に於てはその中の一部を他部より特に加熱すると云う選擇加熱の特徴もある。従つて色々の應用の實例も挙げられているが、それ等に就て具列する事は省略するが、高周波加熱の特徴は上述の如きもの故若し讀者の方々の仕事の上に於て適當な場合があれば考慮して頂けばよい事であると思ふ。

(筆者・篠原氏は名古屋大學教授、大島氏は同大學助手)

建築文献目録

林 野 全 孝

A 構 造

1. 「建築應用力学」小野薫、加藤渉共著 共立出版刊
¥ 300
(現代建築學全書)
2. 「澁谷驛前コンクリートビル移轉工事について」
伊賀上五郎、建築文化誌37號 3階建37坪 移動重
量1000噸、80度廻轉 34米移轉工事概要。

B 計画、意匠

1. 「和風小住宅圖集」服部勝吉、關新五郎共著 彰國
社刊 ¥ 150
2. 「建築意匠」星野昌一著 資料社刊 ¥ 280
廣い角度から建築を意匠的に眺めその本質を良心的
に求めている。
3. 「新しい劇場」ロイド・ルイス、建築文化誌36號
(Theatre Arts 1949.7) 劇場機能は刻々進歩してい
る。ライト、タリエシ、はその機能に應じ、新し
い行き方を建築している。〔本誌は同時にライトの
新劇場を紹介している(A. RECORD)〕
4. 「ル・コルビュジェ文獻」小池新二、建築文化38號
夥しい彼の文獻より基本的なるものの紹介。
5. 「住宅の設計・構造・設備」谷口忠著 理工學社刊
¥ 250
先に學術圖書刊の「住宅汎論」と異名同内容である
のは如何なる理由であろうか。
6. 「ル・コルビュジェのマルセイユ綜合住宅」村田豊
新建築誌1949. 10.
7. 「成長する家族の住宅」マルセル・プロイヤ、
建築文化38號
8. 「プレコン住宅に住んで見て」只腰一久、新住宅誌
32號 田邊平學氏の設計による、この住宅の住調
査の發表。
9. 「日本の住宅」太田博太郎著 彰國社刊 ¥ 80
10. 「建築費の話」早川文夫、新住宅誌30號
——住宅を建てるのにどの位費用が必要か——

C 材 料

1. 「瓦」中村伸著 相模書房 刊 ¥ 140 (建築新書16)
2. 「建築材料」田中一彦、佐治泰次共著 共立出版刊
¥ 350

(現代建築學全書) 分類法の獨自性と新興材料を附
與した點が良い

3. 「ヴィニール系合成樹脂の特徴と應用」福岡和雄
工藝=ニュース誌 1949. 11.

D 設 備

1. 「電氣設備の實際」宮里良保著 パワー社刊 ¥ 230
建築照明及設備に對する電氣知識の詳説書。
2. 「電氣冷房」上田輝雄著 三共出版刊 ¥ 450
3. 「建築衛生設備」高橋保著 産業圖書刊 ¥ 450
設備の理論と應用及び統計資料を掲載。
4. 「厨房とその設備」知久 篤、工藝=ニュース12號
5. 「商店照明実態調査報告」關東配電振興課、照明學
會誌24年9月

E 建 築 史

1. 「塔の研究」佐原六郎著 永晃社刊 ¥ 600
西亞、歐洲の各塔の歴史。
2. 綜觀「法隆寺」村上昭房編 河原書店刊 ¥ 220
専門分野に涉り各専門家により概説。
3. 「法隆寺の研究史」村田治郎著 毎日新聞社刊
¥ 330 千余を超える法隆寺關係文獻と夥しい研究進
歩の歴史を統合し未來に對して方法づける大事業を
村田先生にして始めて成し得たとゆう感が深い。
4. 「密教佛堂の特色」藤原義一、建築學研究 154 號
5. 「法隆寺塔婆金堂及中門の樞刺に就いて」藤澤達夫
建築學研究 155 號
6. 『建築史論特集』建築學研究 155 號
5 編中「原澤東吾」「高井末吉」「神代雄一郎」三氏
は唯物史觀にはつきり立つている。だが、いづれも
唯物史觀の押賣の如き觀がある。過去の建築とその
時代の社會史との經濟的、階級的關連を弁証法的に
統一を求めてこそ唯物史觀の價值があるのに、氏等
は唯物史觀乃至は唯物弁証法に一方的に押込んでい
る様に思える。いづれにしても今後の建築史家は眞
面目に考えねばならない問題である。
「井上充夫」氏の小論は以上三氏と逆に形而上學的
認識論のお説法を聞いている様だ。「關野克」氏は
前記三氏よりも着実に一つの方角に進んでいる様だ
建築史をやる人はこの 155 號を是非讀んでほしい。
7. 「ヘルンの舊居」岡田孝男、新住宅誌81號
8. 「唐招提寺私考」毛利久、史迹と美術誌 195. 196號
建立事情、塔、食堂、僧房、金堂及佛像の諸問題を
通じてその建立年次を天平末期としている。
9. 「廣隆寺の別號秦公寺と太秦寺に就いて」向井芳彦
史迹と美術誌 197. 198號
10. 「正倉院建築論再攷」石田茂作、史迹と美術史 198

號。同誌 192 號「正倉院建築論考」藤澤一夫氏への反論で中倉附加説。

11. 「法隆寺五重塔の建築年代」 藤田喜一郎、史迹と美術 198、199 號 その建築年代を天平末期とした思い切った論。
12. 「危機の藝術バルテノン」 矢羽眞弓(瀧澤)、敬愛誌 1 號 廣い角度からバルテノンの窓を、そしてそこからギリシャ文化の危機を。
13. 「茶室中柱雜考」 上田光雄、茶道雜誌 13 卷 8 號 中柱の發性と變化を建築計画との関連に於いてなされている。
14. 「織部の茶室とその環境」 上田光雄 茶道月報 24、9 及 10 月號

F 其の他

1. 「建築行政ノート」 池原眞三郎著 相模書房刊 頁 150
2. 「明日の住宅と都市」 建設省編 頁 280 彰國社刊 住宅、環境、衛生、都計等各界の權威者 20 名余の人々の執筆。
3. 「TVA」 D・E・ツリエンソール著 和田小六譯 岩波刊 頁 430 テネシイ河流域開發公社による、大開發計画の完成までの計畫と工程を述べ故ルーズベルトの偉業として、アメリカン・デモクラシーの前進を記録した貴重な文獻。
4. 「氣候と人生」 久野寧著 創元社刊 頁 110
氣候の影響と氣候に對する人体反應の二項について

(備考)

日本建築學會研究報告第 3 號及第 4 號が昨年 10、11 月と相ついで發行されたが、各研究機關で御覽になる様に、本目錄では割愛させていただく。

大阪中央放送局見學記

大阪會勢委員會二月行事として去る二月十六日一時から標記見學會を催した。豫報の通り同局は二階以上が進駐軍關係で地下一階に限られていた爲か申込はいつもに比べて少く 50 余名だつた。當日は一同同局地下食堂に集合山本副委員長挨拶後同局庶務課寺田氏より建物並に放送事情について概説を聞いた後同氏の案内で地下ボイラー室、冷暖房裝置電氣室等を経て同局が誇る世界三番と稱される一階大スタジオに入つた。丁度同時刻朝比奈隆氏メクトによる關響樂團練習中であつたが充分見學質問等する事が出来た。夫から二階の中放送室の一室を見學更に特に四階綜合放送機械室に案内され各局との連絡や非常時の單波切替設備、放送中の狀態点檢等の實況を見學出来たのは豫想外の收穫であつた。かくて三時大和理事より謝意と閉會の辭を述べられ一同配布された繪葉書パンフレット、ラヂオ新聞等手にして解散した。當日説明案内の衝にあたられた寺田氏は非常に親切丁寧に詳細を簡明に然かもお話が大変お上手で流石は放送局の方と感服したが特に放送の内幕とも云うべきアナウンサー苦心の場面や、音の出し方と云うより擬音の作り方など所謂業屋話をおしげなく披露され面白さに時の過ぐるを忘れた次第である。茲に當日お話の一端を摘録茶話的に受け賣して参考に供したいと思う。但し記者が専門外のためと文筆家でないのでテクニク其他に誤り多かるべき事、並に説明者の意に反する点は特に諒とされたいのである。終に紙上を通じて寺田氏に漢腔の謝意を表すると共に文疎の罪お詫申上げる。(在文責記者)

現在放送局概況は全國 46 局中繼 41 ヶ所あり大阪中央放送局は世界第三位と云われる 133 坪の第一スタジオ(世界第一獨乙第二シカゴ)始め大小十三の放送室を持っている。日下進駐軍と共同生活のため二階以上案内出来ない事を諒されたい。建築については既に御承知であり専門家であるから略し内部的の事を概説する。第一スタジオは防音、防響完備館内に二重建の様式で天井は吊りになつている。壁内にはフェルトを入れてある。窓は全然ないが空氣を淨化するため床面其他適當排氣設備が施してある。溫度は寒暑 18~26 度の間を調節されている濕度 50%、太陽光線はバイタランプを使つてたが戰後やめている。電力は二ヶ所の変電所から取入れてあるが尙ディーゼルエンジン及蓄電裝置で萬一に備えてある。

壁面三分の一はベニヤを使用床はリノリウム張りに全面カーベットを敷詰めている。マイクは妙きを理想とするが現在十一個備へている。時には室外便所などへも使

電話開通

各種建築金物

株式会社 北尾商店

大阪市北區會根崎上四丁目二六番地
(大阪駅前樓橋) 電話福島⑤4875 番
ヨリナイ

う事がある。(例へば入浴中の現状況を便所で水栓を放ちアー結構な加減ですなどやる事もある)スタジオ後方上部は映寫室、觀覽席あり三重ガラス張りである。陰の聲はスタジオ後方一隅にありガラス張り更に使用時布を廻す。テレビジョン映寫機も二臺あるがまだ機能を發揮してない。東京でも目下試験中、二三年もしたら大阪も野球や相撲其他の實況が見られる様になるであろう。

放送を家庭で聴取して貰うのには二ヶ月前から準備し之等はすべて一旦東京で編集會議にかけ決定し一ヶ月前に番組を定め十五分単位となつてゐる。

次にミツクサーはすべてを調整して此處から吹田放送所に送り、吹田から放送機にかけ一般に放送してゐるのである。放送所は電波其他の關係上廣範の面積を要するので各局共大府市内から一里位の田舎に設けられてゐる各局から集つたものは電波が弱くなつてゐるから此處で強くして再放送してゐる。

發聲中の指揮連絡は電灯を使つてたが最近はアメリカ式に學んでか指信號を使つてゐる。指で○を示せばオーケーとなり○を指し鼻を押へて見せると目下あなたの放送は満點である表現、指一本横に示すと十五秒であり、十字型に示せば三十秒となる。發聲や音の調節はすべてミツクサーが加減する。アナウンサーは何と言つても放送局中隨一の花形である。それ丈採用試験もあらゆる面から満點の者だから何れも相當の者であり又能弁家であり大衆からも慕はれ人氣を一身に集めてゐると云う状態である。然し放送する迄には長期間大變な苦勞と練習を要する。聞いてみれば何でもないがN・H・K三言葉もヒツタリ時間の計算内にあり次の話に移る準備に三十秒終と次の始めのキャッチなどいつもタイムアウトと脱み合ひでマイクをあやつつてゐる。故に頭もさへ有弁でなければならぬ。例えばニュースなど刻々に入り指揮者のメモを間違えず然も一秒を争う時訂正などであるとスグ影響時間一杯ギリギリに納めるなど苦心は容易ならずそんな事で神經衰弱症になる者もある。

擬音の内幕を披露すると何だ馬鹿らしいとお叱りを受けるかも知れないが擬音の種類は約2000位ある。二三紹介すると柳行李内に小豆三升入れ動かすと波の音となる團扇に糸の先に大豆をつけて振ると雨となる、又傘の上には如露で現すものもある。風車にベルト用布をかけて廻すとヒューヒュー風風の音となる、障子を簾でスツとなでると汽車の發車當時のシューシューが出る、扇風機のアンプをとり皮革入れて廻すと飛行機の音となる。箸とセロハンを握つて捻じるとパチパチパチパチお釜を叩くとジャーンジャーンで火事と半鐘の音を現はす。鳴き聲は大底笛を使ふ、等々……以下略。

蓄音機は盛に利用され録音が非常に發達して來た。一日30%はレコードと云ふ現状であるのは御承知の通り大底のものは出来るが蟬の一正丈の音を入れるなどなかなか苦心を要する一例である。現在日本でのアメリカの放送は全部本國から空輸されたものを放送してゐる。アメリカでは十六吋盤一分間三回半廻轉で曲けても割れぬ弾力性のある特種品である由。終り

紙面の都合で以下割愛するがなかなか吾等の耳に達する迄には多くの苦心と多額の經費が想像され之では一日一円五十銭の聴集料は時節柄満更高くもないかと聊か放送局の提灯持して擱筆する。(山本記)

會 務 (二 月)

請負規程委員會 1日 於朝日ビル

尾崎委員長外6名出席最後案検討した結果6日尾崎委員長上京四會連合委員會に出席したが其の席で漸く成案の決定を見るに至つた。

展覽會準備委員會 2日5時からと7日3時から
中野、小林委員及大和理事大丸展覽會準備打合。

兵庫支部 3日11時建設工業組合で山内、早良幹事、大和理事總會及博覽會見學打合、15日9時早良委員大和理事再打合した。21日2時から工業組合で總會開催岡本支部長外17名出席本部代表大下主記理事、大和理事列席、大下主記理事會會長代理祝詞を述べた。役員選舉、23年度決算、25年度收支豫算、事業報告等議した。終つて徳永經濟博士の講演會開催5時半閉會

編集會 3日分室で3月號以降打合、大林委員長外3名11日3時 朝日ビル 小川、星委員編集打合。

主記會 6日2時 分室 定例 羽原理理事外3名出席理事會提案事項等打合した。尙20日1時半から朝日ビルで緊急主記會開催、尾崎代表大下、池田主記出席、中野展覽會委員長より大丸展覽會經過及大阪新聞社と共催第2會場經過と内容協議確認した。

理事會 8日2時 朝日ビル 定例 大林副會長外9名出席、職員一名退職及補充の件、大丸展委員委囑及經費支出の件、行政委員委囑の件、十日會成立會長顧問申越承認の件、朝日ビルより事務室異動豫定の件、25年度豫算編成原案主記及代表理事作成の件、入退會員詮衡。1月分會計狀況外諸報告等議事及報告を了した

建材審査分科會 9日10時から置塩委員長、眞口、竹内成夫委員と大和理事が明石に赴き日本塗料社のエマコート工場及使用先の映畫館や市場及個人病院等實地視察し審査資料を集めた。

事業委員會 9日2時 朝日ビル

佐竹委員長外4名出席 3月30日創立記念日雜事及一

般事業につき検討した。

和歌山會勢委員會 10日1時 縣建築課長室
奥村委員長、島村副委員長外5名、大和理事列席、支
部促進、會員倍加、名簿協力等協議した。

京都支部 11日2時 水道會館 支部總會を開催、松
井支部長外約30名出席、評議員、その他役員選舉、23
年度決算、25年收支豫算、事業報告等議した。尚以上
終了後、京大經濟學部長豊崎先生の講演會を催した。

東海支部 11日午後 四日市日本板硝子工場玉置支部
長以下 名出席、役員選舉、23年度決算、25年度收
支豫算案、會員増加運動、事業報告等を議した。尚終
了後同工場の見學會を催した。

ビニロンフィルム座談會 11日1時建設會館
倉敷レイヨン社製品に係るビニロン座談會あり本會と
建設業協會が後援した。

伸びる家展覽會委員會 11日1時 朝日ビル
豫而準備中の標記委員初會開催、中野準備委員外
名出席、経過報告後委員長、副委員長、各係分掌、幹
事互選、内容検討大要企画を定め直ちに各係活動進行
に着手した。尚15日2時朝日ビルで企画係打合せした。
18日2時分室全委員會合展示係打合、23日3時朝日ビ
ル展示係、25日總委員會を開き、大丸側と會合一切の
プランと資料を提供した。

住宅委員會 13日2時 朝日ビル

政岡委員外4名及府農務課門脇技師出席、昨年より懸
案、農村住宅合所指導の件協議近く實地調査の上具体
案作成の事に申合せた。

中央放送局見學及會勢委員會 16日1時から
3時まで大阪中央放送局見學、山本副委員長外約45名
出席別記の通り見學した。終つて3時半から分室で委
員會開催今後の計画と3月創立記念日行事と連携見學
を協議した。

展覽會第2会場準備會 17日11時大阪新聞社中野
委員長及大和理事、全徳大阪新聞社長、野村主筆等と
会見第2会場の件に關しタイアツプする準備工作を協
議したが、更に20日3時23、24と3回同社側と中野、
小林委員、大和理事と會合詳細打合別記懸賞募集に着
手する事にした。

神戸博覽會見學 26日(日)1時

兵庫支部、大阪會勢委員會共催で開催した者約 名
建築中の諸建物を隅なく見學した。

当日御案内役の野田市建築課長並に万端御厄介になつ
た竹中工務店出張所各位に厚く御禮申上げる。

相 互 幹 旋

(本欄十二分に御利用下さる様各位に切望)

○求 職

京大建築科出身48才勤務先何れも可。下關工業建築科
出身21才北九州方面希望。關西工業建築科出身22才。

○人を求む

30才前後現場係一名中工務店勤務及30才前後雑誌編集
事務員一名を求む至急。

○求 婚

女専出21才、25才、28才三名各何れも良家の女、容姿
体格良、身元確實父建築關係者、三者共専門程度出身
の人物本位の方に嫁ぎたい。

○土地家屋譲渡

1. 神戸市楠町土地 120坪、二階建延75坪外に物置、電
話、水洗便所、ガス電気設備あり。
1. 二階建住宅附事務所延22坪並ガレージ向倉庫40坪、
大阪驛附近40万円。

○家を求む

大阪～京都間で約50万位の家を求めたい。

○お茶とお華の稽古幹旋

表流お茶。末生流お華の稽古希望者は男女を不問御申
込下さい。稽古場阪急附近、會費廉、懇切教授

○賣 却

シャッター(チエン巻揚式)ボックス、シャフト、鏡
戸、その他附屬品一式但しガイドレールなし、數量 5
組、以上賣却したい。

以上御連絡は本會事務局長宛の事

後 記

先に支部號として兵庫、京都、廣島をお
くつたが茲に復興に息吹きつつある東海
地方の状況を紹介する。唯紙面の都合上建築作品紹介を
一部欠號に譲らざるを得なかつたのは遺憾であつた。
本號編集に當つて御盡力賜つた支部委員各位に深くおわ
び申上げると共に深謝する次第である。
次は6月に九州號を企画中である。(編集子)

建 築 と 社 會

第 3 1 輯 第 3 號

賣價 1部60円(送料共)

昭和25年2月25日印刷・昭和25年3月1日發行

編集發行人 戸 川 弘

發 行 所 社團 日本建築協會
法人

大阪市北區中ノ島3ノ3朝日ビル

電話 {土佐堀 44 1836・3631番

{北 濱 28 1334~9 番

振替口座大阪39975番

大 阪 市 東 區 北 新 町 二 丁 目

印 刷 者 中 川 眞 佐 吉

大 阪 市 東 區 北 新 町 二 丁 目

印 刷 所 ア ポ ロ 印 刷 所

(昭和二十四年度)

編輯委員會

委員長	芳廣	郎文正
副委員長	幸信	七虎一
委員	藤鍊次	一郎一
	順清秀	雄一
	忠茂	雄已
	禎	
大星小大栗鴻竹中長伴森今渡	林川西原池中野尾西辺	

会勢委員会

委員長	輝	之
委員長	高田	治
副委員長	稗	樹
同	山	也
委員	岩	郎
同	尾	七
同	大	一
同	木	郎
同	須	郎
同	中	一
同	長	市
同	野	

教育委員会

委員長	新	二
委員	甚	吉
副委員長	三	造
委	武	雄
同	豐	重
同	慶	夫
同	眞	弓
同	謙	三
同	次	郎
同	駒	市
同	利	勲
同	健	雄
井堀小佐菅高瀧東中野元山繁	上口林溝田橋澤畑順 野中良本尾	

住宅委員会

委員長	元吉勇太郎
委員	桐本楠雅

同	小	林	清
同	蒼	田	重
同	竹	內	孝
同	塚	本	郎
同	中	澤	郎
同	中	西	郎
同	西	村	一
同	西	山	三
同	弥	屋	一
同	政	岡	次
同	蘇	中	良

事業委員会

委員長	佐淺井	竹海場	則治	莚平
委員	今岩	西元	兵衛	續
同	大	西	熊七	雄七
同	大	順	幸三	郎
同	栗	原	信正	虎次
同	志	垣	治	尾之
同	須	賀	末	衛
同	錢	木	輝	雄
同	羽	高	德	治
同	伴	原	秀	吉
同	稗	田	雄	次
同	松	村	文	助
同	山	田	之	郎
同	山	昂	九	
同	鷺	尾		

財務委員會

三	一	謙	烟	東	員	長
一	一	友	木	青	委	員
一	一	則	竹	佐	同	員
一	一	三	谷	菅	同	
一	一	一	木	鈴	同	
一	一	一	高	錢	同	
一	一	一	尾	堤	同	
一	一	一	太	長	同	
一	一	一	市	日	同	
一	一	一	太	前	同	
一	一	一	龍	山	同	

地震対策委員会

長 員	委員
池高鷺桐小重菅竹東羽堀益益藪橫	田橋尾本泉松田内畑原口尾原中尾 宮慶健楠守豐成謙德甚辰安一義 滲夫三雅昇善重夫三衛吉雄生良貫
委副委同同同同同同同同同同同同	

請負規程改正委員会

助良郎	夫信雄	郎三郎	郎
久一	三一	武治	敬三
崎中	谷尾	辺須	阪久
尾藪	菅妹	田那	藤松
			山鷺

長事員

委幹委同同同同同同

災害調査委員会

吉	甚	口	堀	員	長	委	副
範	清	本	杉	員	事	副	副
一	正	島	奧			幹	幹
夫	信	武	鬼			同	同
潔			伴			同	同
郎	勝	上	池	員		委	委
雄	澄	崎	石			同	同
郎	三	下	大			同	同
學	誠	井	笠			同	同
一	慶	村	勝			同	同
夫	操	橋	高			同	同
雄	吉	村	谷			同	同
彌	文	野	中			同	同
彰		島	村			同	同
章		本	森			同	同

同 同	彦 賞	幸 義	中 尾	藪 横
建築行政委員会				
委 員	治 行	久 五	田 俊	稗 恒
幹 事	郎 三	順 三	岡 口	山 大
同 委 員	仁 勇	原 島	仲 西	大 藤
同 同 同	雄 正	岡 谷	水	

建築資料要覽委員会				
委 員	助 良	久 一	崎 中	尾 藪
主 幹	衛 七	兵 次	木 安	青 今
同 委 員	郎 次	幸 次	西 坂	大 高
同 同 同	衛 次	謙 正	竹 垣	佐 志
同 同 同	衛 三	謙 德	羽	

建築便覧刊行委員会				
委 員	彦 之	宮 成	田 林	池 内
同 同	郎 次	芳 則	大 佐	大 佐
同 同	郎 三	順 保	野 久	中 松
同 同	良 吾	一 圭	藪 中	渡 部

建築技術者制度調査委員会				
委 員	二 助	新 久	上 崎	井 尾
同 同	郎 良	芳 一	林 中	大 藪
同 同	郎 雄	安 三	田 安	吉 池
同 同	一 平	達 利	田 津	池 小
同 同	植 尾	幸 傳	大 柴	柴 鈴
同 同	夫 春	末 慶	高 竹	高 竹
同 同	郎 生	次 藤	中 西	

同 同	衛 夫	德 愷	原 口	羽 真
同 同	克 三	基 敏	岡 井	政 増
同 同	郎 次	敬 治	松 久	道 山
同 同	樹 久	松 義	山 本	

建築設計競技規準委員会				
委 員	助 良	久 一	崎 中	尾 藪
同 同	正 郎	清 順	小 川	尾 大
同 同	寬 昇	垣 泉	梶 小	梶 小
同 同	清 義	一 謙	野 畑	小 住
同 同	三 平	喜 清	東 中	長 野
同 同	市 文	駒 廣	星 元	森 吉
同 同	郎 一	忠		

建築資材審査委員会				
委 員	章 男	塩 田	岡 小	岡 小
副 委 員	孝 文	松 内	井 手	井 手
幹 事	勝 雄	正 正	奥 加	奥 加
同 同	輔 雅	楠 省	桐 神	桐 神
同 同	三 夫	俊 次	早 島	早 島
同 同	郎 夫	正 正	村 山	村 山
同 同	馨 孝	健 次	田 高	田 高
同 同	造 郎	順 毅	竹 中	竹 中
同 同	一 治	正 愷	称 古	称 古
同 同	夫 克	敏	増 井	増 井

同 同	一 郎	喜 藤	野 村	水 村
同 同	太 正	吉 内	元 山	

建築用語調査委員会				
委 員	助 治	久 代	崎 村	尾 大
同 同	弓 良	一 健	澤 中	大 藪
同 同	三 吾	圭	部 會	部 會

建 材				
幹 事	友 一	木 場	青 井	青 井
同 同	熊 幸	元 西	岩 大	岩 大
同 同	七 衛	村 喜	奥 海	奥 海
同 同	春 貫	井 保	川 久	川 久
同 同	一 郎	田 垣	久 樺	久 樺
同 同	次 三	中 敬	志 田	志 田
同 同	郎 助	民 三	田 中	田 中
同 同	郎 二	德 岩	辻 林	辻 林
同 同	郎 彦	太 武	西 垣	西 垣
同 同	潔 節	三 邦	平 船	平 船
同 同		正	松 山	松 山
同 同			和 田	和 田

「伸びる家」展覧會委員会				
委 員	郎 清	次 博	中 野	中 野
副 委 員	行 郎	英 初	小 岩	小 岩
幹 事	夫 岬	守 博	極 廣	極 廣
同 同	善 三	重 全	小 重	小 重
同 同	一 文	邦 廣	白 津	白 津
同 同	已 三	義 朝	林 彦	林 彦
同 同			星 渡	星 渡
同 同			木 波	木 波

會 告

我が家の「家と庭」設計圖案募集規程

趣旨

政府は住宅建築資金總額百五十億圓を住宅金融公庫を通じ、四月から一般に融資する計画である。高額の權利金や不便な借家探しは單に住宅難の人々を悩ましたばかりでなく、インフレの助長其他暗い社會問題の種を蒔き、再建日本の最大の癌となつていた。低利、月賦返済制で家が建てられる。家のない人にとってこの資金を有効に活用して永年の悩みを解決する絶好の機会であらう。平和國家の名の如く、靜かな美しい緑の國土にするものはまた住宅と庭園でなければならず、今日住宅や庭の設計や創意工夫は單に建築家や専門家に委かされる課題ではなく、家を建てたいと思い、また家を建てようとする廣く一般の國民特に婦人が眞剣に研究しなければならぬ大きな問題である。大阪新聞社並に日本建築協会が以上の趣旨に沿うて廣く一般から新時代をつくる優秀なる住宅と庭の設計圖案を懸賞募集することになった。

二、設計の條件

(イ)家の大きさと敷地の廣さ 建築面積(二階建てであればその合計)は約十二坪から三十坪までとし、敷地の廣さはそれに應じて五十坪から百五十坪位とする。

(ロ)家族人数 二～五人位までとする。

(ハ)所要室 任意とする。

(ニ)構造、材料 任意とする。

(ホ)庭について 敷地内の空地に、家に相當した簡單な芝生、花だん、植込、菜園、物干場などの計画をすること。

三、必要な圖面及び設計説明

(イ)間取圖 敷地の圖面を書いて、その中に家の間取と、庭の計画とを一緒に書くこと。設備について新工夫があれば間取圖に記入すること。縮尺は50/1程度とする。將來、増築計画のあるものは、その部分をわかるようにしておくこと。

(ロ)建物の外部と庭の透視圖 透視圖とは、出來上つたところを描いた圖面であるが、これは都合で省略してもよい。又こう云う外観にしたいと云う他の建物の寫真とか圖面があれば付けて出してもよい。

(ハ)設計説明 簡單に圖面の余白に記入すること。なお間取、設備について創意工夫の點があれば附記すること。

四、賞金

一等一人三萬圓、二等二人一萬圓宛

佳作十人二千圓宛

五、締切期日

昭和二十五年三月二十五日正午

六、當選者の發表

審査の結果は本人に通知をすると共に、『大阪新聞』紙上(四月一日發行)及び日本建築協会發行の『建築と社會』誌上に發表する。なお、適当な方法で展示する豫定である。

七、審査員

(五十音順)

大阪市立大學家政學部教授工博	伊藤正文氏
日本建築協会理事 日本建設産業株式會社專務取締役工博	尾崎久助氏
大阪大學教授工博	堀原三郎氏
新住宅社主幹	小林清氏
家庭婦人	辻野千鶴氏
日本建築協会理事 大阪市立都島工業高等教學校教頭	中野順次郎氏
大阪新聞社企画局長	松並勇氏
造園家	西川浩史氏
家庭婦人	西川ふじ子氏
家庭婦人	藤田壽氏
大阪府建築部住宅課長	元吉勇太郎氏
	以上

八、應募心得

(イ)圖面は大きさタテ50匁、ヨコ70匁の画用紙に墨書きとし彩色してもよい。但専門的作圖でなくてもよい。

(ロ)圖面の書き方の不明な人は、下記の日本建築協会において相談に應ずる。

(ハ)圖面には暗號を記して、別に暗號及び住所、氏名職業を記入した紙片を封筒に入れて密封し、封筒の表面に前記暗號を記入しておくこと。

應募圖送附する時は表面に懸賞圖案と朱記する事。

(ニ)應募圖案に關する一切の權利は、主備者に歸するものとする。

(ホ)應募圖案は返送しない。

(ヘ)應募圖案送付先

大阪市東區京橋三丁目七八 大阪建設會館内

(電話東八六一) 日本建築協会分室宛

北區會根崎大阪新聞社懸賞係 以上

大阪新聞社

主催 社團 日本建築協會
法人

會 告

三月は本會創立記念の月に相當しますので聊か誕生日を祝する意味で大要下記の催しを行います。奮而御申込み下さい。(本會告を以て通知に代へる)

見 學 會

(1) 大阪窯業セメント工場及製産狀況見學

時 三月十五日(水)午後一時三十分 集合 市内大正區南恩加島町一ノ二 同工場
會費 三十円申込と同時に前納の事

(2) アメリカ博建物並展示物見學

時 三月十七日(金)二時 集合 阪急西宮驛南出口
會費 三十円申込と同時に前納 當日は一般招待日混雜する故會員章必ず着用の事

(3) キャバレードミノ並スタンドパーシスター石造建物見學

時 三月二十三日(木)二時 集合 道頓堀ドミノ
會費 三十円申込と同時に前納の事

座 談 會 懷舊談及將來の事業等に就て 出席者は別に案内狀を發する
時 三月二十五日(土)二時 所 朝日ビル本會事務室

講 演 會

時 三月三十日(木)二時 所 大阪建設會館 天神橋詰
題と 住宅金融公庫並建築基準法問題に就て 吉田建築部長外
講師 時事問題に就て 朝日新聞社記者(交渉中)

懇 親 會

時 三月三十日(木)(本會創立記念日)午後五時
會場 大阪建設會館。講演會終了直後開催
會費 參百円也申込と同時に頂く事(簡暑な食事、祝盃、茶菓代。別に補助あり)

會員作品展示會

時 三月三十日(木)講演會當日 會場 大阪建設會館二階
油絵、バステル、クレヨン畫、南畫、スケッチ其他俳句、詞文、書畫、骨董等奮而御展示願う

- 以上何れも晴雨不論決行 ○申込後不參の時も會費負擔の事 ○何れも會員外の参加お断りの事
- 各見學共會員章は着用されたし ○各會共豫定人員あり先着締切の故早目に申込れたき事
- 以上の中、變更ある場合は申込者のみに對し別に通知を發する

◎伸びる家懸賞締切迫る。三月十五日迄着する様奮而應募されたし。

●第三一集 第三号 掲載広告一覽 (掲載順)

協和製作所
ケントク
安藤組
大林組
鹿島建設
鴻池組
三建工業
清水建設
銭高組
竹中工務店
大成建設
戸田組
西松建設
間組
橋本組
郷組
光建設
染木建設
山岸工業所
大同スレート
東海鋼材工業
日本耐火スレート

東日本スレート興業
中央建材工業
名建商会
南部商会
日本コンクリート土木建築
日本セメント防水剤製造所
日本建材
高橋建材店
朝日スレート
加藤建材店
小野田セメント製造
日東物産
富田建材店
寿スレート
朝日石綿工業
大喜工業
林屋
利倉幸商店
吉川時松商店
近畿電気工事
浅海電気産業
朝日設備工業

大阪城口研究所
大阪電気商会
大阪暖房商会
桐田商会
斎藤久孝
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
大和工業
江昌工業所
明正社
三晃商会
栄興商会
保坂工業所
日新工業
日本セメント防水剤製造所
安岡保温工業
黒川化学工業所
満点製作所
福島商事
三高製作所
日建鋼業
中川ラス製作所
ライトラバー興業

鈴木シャッター工業
亀井
浪花工房
大阪建材工業
芦屋左官工業所
山本建材社
木下謹三商店
樫野石灰工業
三幸商会
豊国瓦建材
石田建材店
産業スレート
新京建材社
吉田芳雄商店
興亜建材工業所
寶珠園
岡田建材店
矢橋大理石商店
鬼頭忠兵衛商店
万竈社